

## 近世以前の土木遺産に見られる都道府県ごとの地域的特徴\*

### Regional Characteristics found in the Civil Engineering Heritage in Japan before Edo Era

馬場俊介\*\*、樋口輝久\*\*\*、丹羽野真也\*\*\*\*、山元 亮\*\*\*\*

By Shunsuke BABA, Teruhisa HIGUCHI, Shinya NIWANO and Ryo YAMAMOTO

#### Abstract

The authors have been studied on the survey of civil engineering heritage covering the whole country constructed before and including Edo era in the present time. Total number of heritage put on the list exceed more than 6000. Topics of this paper is searching for the regional characteristics found in the heritage based on the list, because all such properties can be used for judging values of heritage as well as can be used for revitalization of provincial area due to "Landscape Act (2004)". In this paper, the distinctive civil engineering heritage of all 47 prefectures of Japan are described in detail, sometimes listing up the individual name.

#### 1. 序

著者らは、2006年4月以来、近世以前（江戸末期～古代）の土木遺産の全国調査を実施してきた。その間、各市区町村への書状による資料提供依頼、電話による督促、歴史の道報告書など全国的規模で行われた既往の調査、特定分野に詳しい専門家からの情報提供、ウェブ情報など様々な出典をもとに、玉石混交のデータの精査を行ってきた。2009年9月時点での有効データは6130件に達するが、それとは平行して、現地調査も行いその地点数は、過去に別件で調査した件を含めれば、46都道府県の総計1240件に達する。現地調査については、あと3回程度を残すのみとなったが、これらの調査対象の選定にあたっては、重要度、地域性、保存方法など様々な要素を万遍なく含むように配慮した。

このように調査を進める中、著者らが常に重視してきたのは、①重要な土木遺産の把握漏れを最小限に留めるよう努力すること、②評価方法の原案を提案すること、③現存する遺産に見られる地域性の分析と、「景観法」絡みでの保全・活用の方向性の模索の3点であった。そして、これらの中で②については、近代土木遺産での評価法を訂正し、評価を(a)本来的価値（史的発想と建造物的発想の混合）と、(b)保存状態（建造物的発想）の2つに分けて行うという基本方針のもとで進めてきた。前者については、目下執筆中であるが、後者については既に保存状態に関する評価基準を公表した<sup>2)</sup>。また、③に関しては、先行して調査を実施した中国地方を例にとり、現存する遺産に見られる地域性の分析を行った<sup>3)</sup>。本論文の目的は、③を全国に拡大し

て、都道府県ごとに、現存する近世以前の土木遺産に見られる地域的特徴を提示・分析することにある。ここで注意を喚起しておきたいことは、本研究の目的は、史実に基づいて各地域の真の地域性を知ろうとすることにある訳ではなく、現存する土木遺産から垣間見ることができる地域性にのみ焦点を当てていることである。従って、対象とする地域も、律令制以来の国や、江戸時代の藩で分けるのではなく、現在の都道府県で区分している。すなわち、土木遺産を地域資産として見た場合に、地域のアイデンティティを体現する存在として考えるという視点に立った上で、それらの資産が物語る地域性に焦点を当てている。

これら資産の中には、近世以前からその地域の代表的な産業の「生き証人」であるようなものもあるし、他の都道府県では失われたのに、その地域だけ例外的に残ってしまったため「特徴」となってしまったものもある。近代化以来の各県の方針、高度成長期の影響などが様々に絡まって現状を構成しているのも、都道府県別に見た地域性の大きな特徴である。繰り返すが、本論文の結論から、歴史的な背景を受けての真の地域性を推測することは危険であるどころか、ほとんど意味がない。あくまでも、幸いにして残ったため、それが新たな地域の特徴となっているものだと考えることが望ましい。

このような調査が全国的に行われたのは今回が初めてであり、その結果、現在の都道府県には、過去からの遺産が、かなり特徴的な形で残されていることが判明したことは、今後の「景観法」に基づく地域づくりを考える上で、基本的な情報源となるであろうし、今後、無知・無作為による歴史遺産の破壊防止に役立つものと期待したい。

本論文は、2章で調査対象の土木遺産の種別の提示、3章で各都道府県の特徴的な土木遺産の提示とその分析を行う。

\* Keywords: 近世以前、土木遺産、全国調査

\*\* 正会員 工学博士 岡山大学大学院教授  
(〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1)

\*\*\* 正会員 博士(学術) 岡山大学大学院助教(同上)

\*\*\*\* 非会員 岡山大学大学院環境学研究所博士前期課程(同上)

## 2. 調査対象の土木遺産の種別

本調査で対象とする土木遺産は、2006年の調査の開始当時と、2009年の現段階とでは、一部とはいえ重要な対象の変更があった。その理由は、調査前に予測した土木遺産の範疇に、調査に不向きなものが含まれていたことと、事前にその存在を知らないものがあったためである。最終的に選択された、土木遺産の種別を表-1に示す。当初、この表の中には、山城、城郭石垣が含まれていた。また、古墳は初めから対象外としていた。これらを外した理由は、前者は、調査の偏りが多く、全体数が非常に多いこと。後者は、既知のリストが存在するためである。逆に、新たに追加したものとしては、石敢當（T字路の魔除け）、舟繋石（環状、柱状）、方角石（東西南北を示す石）、特殊田（井田、車田、掘り下げ田など）、馬の飼育施設（牧堤、駒追込場）、魚垣（干満の差を利用した魚の捕獲施設）、洪水遺産（郡境目当の石、助命壇、水神信仰）、狼煙場・遠見台（多くは幕末に列状に整備された）、印部石（琉球王国の土地の基準点）、星見石（天体観測用の石）などである。

これらの総件数は6130件にのぼる。なお、この中には、道標、境界石、常夜灯、石橋など膨大な数にのぼるもので、ある一定の基準<sup>1)</sup>以下のものは削除してある。内訳を示すと、表-2のようになる。結果を見る限り、それでも、道標、常夜灯、各種の橋が圧倒的に多く、逆に、重要な土木遺産でありながら、道路、隧道、階段状の船着場である雁木、川浚い遺構、掘込港湾、魚垣など稀少なものもあり、差が非常に大きいことが分かる。道標、常夜灯はどの地でも必要だったのに対し、橋は、木橋と石橋で大きく異なるものの、石橋での残存が多いことを示している。一方で、近世以前の日本にとって、主要な産業であった農業遺構が以外と少ないのは、圃場整備事業による破壊の影響が大きく表れている。同様に、河川、港湾関連の施設が少ないのは、明治以来の治水事業、漁港整備事業による破壊

の影響と言ってよい。これらは、もともと数多くあったものが、破壊されて少なくなったものである。一方、河川隧道（新潟、千葉）、馬の飼育施設（平安期は長野、江戸期は千葉）、魚垣（九州・沖縄）、遠見台（主として沖縄）、印部石（沖縄）のように地域的な偏りの強いもので、それが地域の特徴として少数でも残っているのは貴重な存在と言える。

なお、遺産種別ごとの件数を表-2に示す。表によれば、項目ごとに残存数に大きな差のあることが特徴である。

## 3. 各都道府県の特徴的な土木遺産の提示とその分析

本章では、各都道府県を特徴付ける土木遺産について、構造種別ごとの特徴を述べ、かつ、特に優れたものについては、個別ごとに名前をあげて簡単な紹介を行う。また、特に優れたものについては、写真を添付する。

### <北海道>

北海道に残る土木遺産は、蝦夷地だったという経緯もあり、地域限定的で、数も多くない。従って、特に多いものはないが、特徴的な存在は、方角石、にしん漁の遺産、安東氏の道南十二館と松前藩陣屋の遺構である。方角石は道内に7基確認されているが、都道府県単位では最多である。中でも、江差・鷗鳥にある厳島神社境内の方角石は、手水鉢も兼ねた大型のもので他に例がない。にしん漁の遺産としては、旧留萌佐賀家漁場（国史跡）の船着き場が全体の雰囲気を残す他、明治・大正期に全盛を迎えるにしん漁の先駆けとして、北海道らしさを体現している。道南十二館（15世紀中頃）は安東氏とアイヌとの交易の場所として築かれた防塁であるが、函館空港脇の志苔館跡は時代が古い割に最良の保存状態にある。江戸末期の西洋式の砲台としては松前藩戸切地陣屋跡と、函館五稜郭が代表例である。

表-1 本調査で対象とした土木遺産の種別

| 分類    | 項目     | 種 別                                                                                                               |
|-------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 交通    | 道路     | 石畳・石段、一里塚、並木、隧道、切通し、常夜灯、道標、境界石、石敢當、渡し場、関所・番所跡、古代道路の痕跡など                                                           |
|       | （うち、橋） | 石アーチ、石桁、石剣、木橋（復元）、橋脚の遺構 など                                                                                        |
|       | 河川舟運   | 舟着場、雁木・護岸、水制、常夜灯、川浚い遺構、運河、閘門など                                                                                    |
|       | 海運     | 舟着場・舟蔵、雁木・護岸、防波堤・防砂堤、掘込港湾・突堤、舟繋石、方角石、常夜灯など                                                                        |
| 産業    | 農業     | 取水堰（地下取水堰を含む）、溜池（土堰堤）、用水路（隧道、切通し、サイフォン、水路橋）、溜井、水門（分水樋門、排水樋門）、干拓施設（締切堤防、排水樋門）、クリーク、特殊田（条理遺構、井田、車田、掘り下げ田）、棚田石垣、猪垣など |
|       | 飼馬業    | 馬の飼育施設（牧堤、駒追込場） など                                                                                                |
|       | 林業     | 流材道など                                                                                                             |
|       | 漁業     | 魚垣、捕鯨関連施設（狼煙場、連絡所） など                                                                                             |
|       | 製塩業    | 樋門、入り浜式塩田の水路用の橋                                                                                                   |
|       | 鉱業     | 露天掘り、坑道（間歩）、油田、各種炉など                                                                                              |
| 防災    | 海岸     | 防波壁、防風壁、防風林、防砂林、防潮林 など                                                                                            |
|       | 河川     | 堤防（石堤、輪中堤）、遊水池（霞堤、大水尾）、水制（猿尾、荒籠）、放水路（洗堰、排水樋門）、郡境目当の石、助命壇、水神信仰に関わる遺構、砂防堰堤（砂留） など                                   |
| 生活    | 上水     | 井戸（石枠井戸、まいまいず、ヒージャー）、湧水、上水路など                                                                                     |
|       | その他    | 石堀（防風、防火）、農業用水路の雁木など                                                                                              |
| 軍事・行政 |        | 台場、防塁、陣屋、狼煙場、遠見台、測量用基準石（印部石）、星見石など                                                                                |

### <青森>

青森県に多く残る土木遺産は、一里塚、並木、台場であり、その何れもが、かつては他地域にも相当数あったものであり、青森特有のものではない。一里塚は26基がリストに入っているが、塚が一对で残るケースが多いなど全体に保存状態は悪くはないが、天間館一里塚のように樹齢300年を超える塚木（ケヤキ）まで残っているケースは稀である。並木の方は、松枯れ病の被害が青森まで及んでいない割に、病虫害以外の理由で本数が少ないものが多く、津軽半島の先端近くにある松前街道・平館の松並木（約1km、補填分も含む）、百沢街道松並木（64本）が突出している。台場は、津軽海峡、蝦夷地に対面していただけあって幕末期に多数造られたが、江戸末期の松が完全に残る平館台場以外の保存状態は悪い。

その他の遺産として、独自色の強いものには、奥州街道の藩境に2基ずつ計4基築かれた藩境塚（四ツ塚）がある。

### <岩手>

岩手県に多く残る土木遺産は、一里塚、水路隧道であり、青森同様、かつては他地域にも相当数あったもので、岩手特有のものではない。一里塚（七里塚を含む）は70基がリストに入っていて、全国でも最多である。塚が一对で残るケースが多いなど全体に保存状態は悪くはないが、塚木まで残っていることは稀で、両側とも松が残ること珍しい和味一里塚も、当初からの松である可能性は低い。県下では、「穴堰」と呼ばれる水路隧道は、沢の多い地形を反映して12件がリストに入っている。しかし、その多くはコンクリートで改修され、建造当初の姿を保っているものは少ない。その中での代表は、16世紀前半という戦国期の完成であり（1493年説もある）、10ヶ所ある隧道の総延長が約3kmにも達する旧穴山堰である。また、現役のものとしては、照井堰の大仏隧道（長さ147mの素掘トンネル）がある。

その他の遺産として、独自色の強いものには、南部領伊達領境塚群、高田松原、橋野高炉がある。領境塚は、大塚11基、小塚198基、挟塚2基が現存しているが、これほど領土の境界に拘った歴史を物語る遺産は、現存例がない。ただ、大塚と言っても、説明板がなければ通り過ぎるほどの小規模なものである。高田松原は、全国に残る近世由来の海岸防砂林の多くで、江戸期の松がほとんど残っていないにもかかわらず、全長1.9kmに渡って樹齢300年を超えるクロマツ・アカマツが密生している。橋野高炉は現存する日本最古の洋式高炉跡で、アメリカ金属学会からも顕彰されている。

### <秋田>

秋田県に多く残る土木遺産は、一里塚、並木、塩害防止石塁であるが、最後の石塁は秋田特有の存在と言ってよい。一里塚は18基がリストに入っていて、東北部では最少であるが、当初の大きさが残っているという意味では、全国屈指の県である。中でも、愛宕町一里塚の祠と一体化した塚のない巨木、湯の原一里塚の塚を板状に覆い尽くした巨大な根などは、他では見られない特異な風景である。並木の方は、一番残りの良い檜山追

分松並木でも13本しかない。やはり、特筆すべきは日本海からの防風・塩害防止用の街道石塁で、飛の波除、芹田波除の2つ、石塁構造としては計5ヶ所が残っている。海岸の丸い自然石を捨石状に積み上げただけの簡単な構造だが、海に沿って延々と続いている様子は、他では見られない。一番これに近いのが、鳥取県の琴浦海岸石塁（2ヶ所）であるが、規模、保存状態とも格段の差がある。

その他の遺産として、独自色の強いものは、今のところ探しきれしていない。

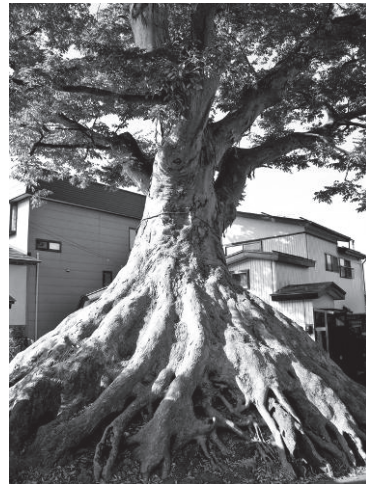


写真-1 愛宕町一里塚（撮影：馬場俊介）

### <宮城>

宮城県に多く残る土木遺産は、一里塚、特殊道標、水路隧道である。一里塚は東北全体の特徴だが、都市化の進んだ宮城県では9基と数が少なく、状態も良くない。水路隧道は岩手県に次いで多く、伊達藩の新田開発への強い意欲を、結果的に裏付けている。中でも、品井沼潜穴、通称、元禄潜穴は延長2578mという近世有数の規模で、かつ、現役であることから、土木遺産としてもよく知られている。呑口側は明治期に煉瓦で改造されたが、吐口とずり穴は当時のまま残されている。宮城独自と言えるのが、特殊道標である。独自と言っても、多くの地方で、それぞれの形の「独自さ」があるが、宮城県の場合は、数こそ多くはないが、増田神社常夜灯（道しるべ）のような、龍の頭が点灯部になって道標と常夜灯を兼ねるといふ、特異な例がある。

その他の遺産として、独自色の強いものは、貞山堀（当初の名称は木曳堀と御舟入堀）という全長約19kmの運河の存在で、近代に入り、新堀（木曳堀と御舟入堀をつなぐ運河）、北上・東名の両運河（さらに、その北部）と伸延され、東北開発の要となっていく。貞山堀は、江戸期でも全国有数の大運河である。ただ、現在の幅約25mは、当初の幅12.7mの倍なので、拡張されたことは大きな変化である。木曳堀の松並木が海側しか残っていないのは、そのためである。その他、専用の運河ではないが、農業用水と舟運とを兼ねていた仙台市内の六郷堀、七郷堀が、平成18年から「非かんがい期通水事業」により環境用水化した代表的な事例であることも忘れてはならない。

表-2 遺産種別ごとの件数

|     | 石畳・石段 | 一里塚 | 並木 | 隧道・切通し | 常夜灯 | 道標   | 石敢當(丁字路の魔除け) | 渡し場 | 石畳・石段 | 石アーチ | 石桁 | 石刻 | 舟着場 | 雁木・護岸 | 常夜灯 | 川浚い遺構 | 閘門 | 舟着場・舟蔵 | 雁木・護岸 | 防波堤・防砂堤 | 掘込港湾・突堤 | 常夜灯 | 取水堰 | 用水路・隧道・切通し |
|-----|-------|-----|----|--------|-----|------|--------------|-----|-------|------|----|----|-----|-------|-----|-------|----|--------|-------|---------|---------|-----|-----|------------|
| 北海道 |       |     |    | 1      |     |      |              | 3   |       |      |    |    |     |       |     |       |    | 3      | 1     |         |         |     |     |            |
| 青森  |       | 26  | 11 |        | 1   | 1    | 1            |     |       |      |    |    |     |       |     |       |    |        |       |         |         |     | 1   | 2          |
| 岩手  |       | 70  | 4  |        |     | 14   |              | 1   |       |      |    |    |     |       |     |       |    |        |       |         |         |     | 3   | 12         |
| 秋田  | 1     | 18  | 6  | 2      | 1   | 6    |              |     |       |      |    |    |     | 1     |     |       |    |        |       |         |         |     | 2   | 2          |
| 宮城  | 3     | 9   | 1  |        | 2   | 10   |              | 1   |       |      |    |    |     | 3     |     |       |    |        |       |         |         |     | 18  | 4          |
| 山形  | 8     | 4   | 2  | 2      | 3   | 2    |              | 1   |       |      |    |    |     | 8     |     |       |    |        |       |         |         |     | 15  |            |
| 福島  | 6     | 54  | 4  | 2      | 8   | 27   |              | 8   | 1     |      |    |    |     | 6     |     |       |    |        |       |         |         |     | 3   | 3          |
| 新潟  | 5     | 17  | 2  | 1      | 2   | 21   |              | 1   |       | 1    |    |    |     | 5     |     |       |    |        |       |         |         | 1   | 1   |            |
| 群馬  |       | 3   | 1  | 1      | 7   | 17   |              |     |       |      |    |    |     |       |     |       |    |        |       |         |         |     | 1   |            |
| 栃木  | 2     | 35  | 3  | 1      | 4   | 53   |              |     |       |      |    |    |     | 2     |     |       |    |        |       |         |         |     | 1   | 1          |
| 茨城  |       |     | 2  |        | 1   | 14   |              | 3   |       |      |    |    |     |       |     |       |    | 1      |       |         |         |     | 1   | 1          |
| 千葉  |       | 2   | 3  | 3      | 3   | 445  |              |     |       |      |    |    | 1   |       | 1   |       |    |        | 1     |         | 1       |     | 1   | 1          |
| 埼玉  |       | 10  | 1  |        | 3   | 79   | 2            | 6   |       | 4    |    |    |     |       |     |       | 1  |        |       |         |         |     | 1   | 3          |
| 東京  |       | 7   | 2  | 4      | 19  | 34   |              |     |       |      |    |    |     |       |     |       |    |        |       | 1       |         |     | 1   |            |
| 神奈川 | 2     | 6   | 4  | 9      | 1   | 26   |              |     |       |      |    |    |     | 2     |     |       |    |        |       |         |         |     |     | 8          |
| 山梨  | 2     | 2   | 3  |        |     | 2    |              |     |       | 1    |    |    |     | 2     |     |       |    |        |       |         |         |     | 2   | 4          |
| 長野  | 2     | 21  | 2  | 5      | 11  | 19   | 2            | 1   |       |      |    |    | 1   | 2     |     |       |    |        |       |         |         |     | 9   | 6          |
| 静岡  | 4     | 14  | 5  | 1      | 66  | 22   | 1            | 1   |       | 2    |    |    | 1   | 4     |     |       |    |        |       | 2       |         |     | 8   | 4          |
| 愛知  | 3     | 8   | 5  |        | 148 | 28   |              |     | 1     | 1    |    |    |     | 3     | 6   |       |    |        |       | 2       | 3       |     |     |            |
| 三重  | 18    | 5   | 1  |        | 34  | 85   |              |     |       | 1    |    |    |     | 18    | 1   |       |    | 1      |       | 1       |         | 1   |     | 2          |
| 岐阜  | 6     | 15  | 2  | 1      | 12  | 18   |              | 3   |       | 2    |    | 1  |     | 6     | 6   |       |    | 1      |       |         |         | 4   | 1   | 8          |
| 富山  | 2     | 4   | 1  | 1      | 1   | 4    |              |     |       |      |    |    |     | 2     | 2   |       |    |        |       |         |         | 1   | 1   | 1          |
| 石川  | 1     | 1   | 2  |        |     | 1    |              |     |       |      |    |    |     | 1     |     |       |    |        |       |         |         |     |     | 6          |
| 福井  | 3     | 3   |    | 3      | 2   | 11   |              | 1   |       |      |    |    |     | 3     |     |       |    |        |       |         |         | 2   |     | 3          |
| 滋賀  |       | 5   | 1  |        | 12  | 24   |              | 1   |       | 7    |    |    |     |       |     |       |    |        |       |         |         |     |     | 1          |
| 京都  | 2     | 1   |    |        | 8   | 59   | 1            |     | 1     | 1    |    |    |     | 2     |     |       |    |        |       |         |         |     |     | 5          |
| 奈良  | 2     |     |    |        | 7   | 30   |              |     |       |      |    |    |     | 2     |     |       |    |        |       |         |         |     |     |            |
| 大阪  | 4     | 5   |    |        | 86  | 177  |              | 1   | 1     | 2    |    | 2  |     | 4     | 1   |       |    |        |       | 1       |         |     |     | 2          |
| 和歌山 | 9     | 3   |    | 2      | 4   | 19   | 2            |     | 1     | 2    |    |    |     | 9     |     |       |    | 1      |       |         |         | 1   |     | 4          |
| 兵庫  |       | 1   | 1  | 3      | 13  | 31   | 2            |     |       | 2    |    | 1  |     |       | 4   |       |    |        |       | 4       | 1       | 4   |     | 3          |
| 鳥取  | 7     | 3   | 1  |        | 26  | 20   |              | 1   |       |      |    | 1  |     | 7     |     |       |    |        |       | 1       |         |     | 2   | 1          |
| 岡山  | 1     | 9   | 2  | 2      | 15  | 41   |              | 3   |       | 18   | 8  | 9  | 1   | 1     | 7   | 1     | 3  |        |       | 2       |         | 7   | 8   | 1          |
| 島根  | 13    | 11  |    |        | 3   | 5    |              | 1   |       |      |    | 1  | 1   | 13    |     |       | 3  | 7      |       | 2       |         | 1   | 1   | 4          |
| 広島  | 5     | 4   | 3  |        | 23  | 3    |              | 2   |       | 1    |    |    | 2   | 5     | 84  |       |    | 2      | 4     | 6       |         | 2   | 1   | 3          |
| 山口  | 10    | 14  | 1  |        | 3   | 4    | 1            | 1   | 3     | 15   | 9  |    | 1   | 10    |     |       |    | 4      |       | 2       |         | 2   |     | 2          |
| 香川  |       |     |    |        | 44  | 23   |              |     |       |      |    |    |     |       |     |       |    |        | 1     | 7       | 1       | 3   |     | 1          |
| 徳島  | 1     |     | 1  | 1      | 6   | 38   | 1            | 20  |       |      |    |    |     | 1     | 4   |       |    |        |       |         |         |     | 2   | 3          |
| 愛媛  | 6     | 3   |    |        | 22  | 37   |              | 1   |       |      |    |    |     | 6     | 1   |       |    |        |       |         |         | 1   | 4   | 3          |
| 高知  | 5     | 2   | 3  |        | 1   |      |              |     |       |      |    |    | 2   | 5     |     |       |    |        |       | 4       | 5       |     | 7   | 3          |
| 福岡  | 4     | 5   | 1  | 3      | 1   | 18   |              | 1   | 8     | 20   |    |    |     | 4     |     |       |    | 2      | 1     | 2       |         | 2   | 5   | 5          |
| 佐賀  | 2     | 1   |    | 3      | 1   | 4    | 1            |     | 1     | 2    |    |    |     | 2     |     |       |    |        |       |         |         |     | 13  |            |
| 長崎  | 2     |     |    |        | 1   |      |              |     | 22    | 10   | 1  | 2  |     | 2     |     |       |    | 4      |       | 4       | 2       |     |     | 2          |
| 大分  | 25    | 1   |    | 4      | 1   | 22   |              |     | 27    | 20   |    |    |     | 25    |     |       |    |        |       | 1       |         |     | 4   | 2          |
| 熊本  | 15    |     | 5  | 1      |     | 3    |              | 3   | 150   | 6    |    | 4  | 2   | 15    |     |       |    |        | 1     |         |         |     | 5   | 13         |
| 宮崎  | 5     | 3   | 1  | 1      |     | 3    | 18           | 1   | 11    |      |    |    |     | 5     |     |       |    |        |       |         |         |     | 3   |            |
| 鹿児島 | 1     |     |    |        |     |      | 3            |     | 19    | 5    |    |    |     | 1     |     |       |    |        |       | 3       |         |     | 1   | 1          |
| 沖縄  | 11    | 3   | 1  |        |     |      | 6            |     | 15    | 1    |    |    |     | 11    |     |       |    |        |       |         |         |     |     |            |
| 合計  | 194   | 285 | 66 | 54     | 602 | 1469 | 40           | 61  | 261   | 124  | 18 | 21 | 12  | 194   | 117 | 1     | 7  | 23     | 8     | 42      | 13      | 35  | 102 | 110        |

| 水路橋 | 樋門 | 干拓樋門 | 締切堤防 | 特殊田 | 猪垣 | 馬の飼育施設 | 魚垣 | 入り浜式塩田の水路用の橋 | 露天掘り・坑道 | 防波壁・防風壁 | 防風林・防砂林 | 堤防  | 水制 | 河川隧道 | 放水路関係 | 洪水遺産 | 砂防堰堤 | 井戸・水源地 | 台場・防塁 | 狼煙場・遠見台 | 測量用基準石 | その他  | 合計   |     |
|-----|----|------|------|-----|----|--------|----|--------------|---------|---------|---------|-----|----|------|-------|------|------|--------|-------|---------|--------|------|------|-----|
|     |    |      |      |     |    |        |    |              | 1       |         |         |     |    |      |       |      |      | 1      | 8     |         |        | 26   | 44   | 北海道 |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              |         |         |         |     |    |      |       |      |      | 1      | 10    |         |        | 16   | 70   | 青森  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              | 3       |         | 1       | 1   |    |      |       |      |      | 6      | 3     |         |        | 11   | 129  | 岩手  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              |         | 2       | 1       |     |    |      |       |      |      | 3      | 1     |         |        | 10   | 55   | 秋田  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              |         |         | 1       | 1   |    |      |       |      |      | 1      |       |         |        | 13   | 64   | 宮城  |
|     |    |      | 1    |     |    |        |    |              | 5       |         | 2       | 3   |    |      |       |      |      | 1      |       |         |        | 6    | 55   | 山形  |
|     |    |      |      |     |    | 1      |    |              | 2       |         |         |     |    |      |       |      |      | 2      | 1     |         |        | 18   | 140  | 福島  |
| 1   |    |      |      |     |    |        |    |              | 4       |         |         |     |    | 4    |       |      |      | 3      |       |         |        | 26   | 90   | 新潟  |
| 1   |    |      |      |     | 2  |        |    |              |         |         | 1       |     |    |      |       |      |      | 2      |       |         |        | 16   | 52   | 群馬  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              | 1       |         |         |     |    |      |       |      |      | 1      |       |         |        | 13   | 115  | 栃木  |
|     |    |      |      | 1   |    |        |    |              | 3       |         |         | 1   |    |      |       |      |      | 4      | 5     | 1       |        | 14   | 52   | 茨城  |
|     |    |      | 1    |     | 2  | 238    |    |              |         |         |         | 2   |    | 3    |       | 3    |      | 6      | 3     | 2       |        | 15   | 737  | 千葉  |
|     |    |      | 1    |     |    |        |    |              | 4       |         | 2       | 14  |    |      |       | 1    |      | 7      | 1     |         |        | 34   | 174  | 埼玉  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              |         |         |         | 3   |    |      |       |      |      | 12     | 3     |         |        | 30   | 116  | 東京  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              |         |         |         | 6   |    |      |       |      |      | 2      | 7     |         |        | 7    | 78   | 神奈川 |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              | 3       |         |         | 1   | 8  |      |       |      |      | 4      |       | 1       |        | 11   | 44   | 山梨  |
| 1   |    |      |      |     | 3  | 3      |    |              |         |         | 1       | 6   |    |      |       |      |      | 11     |       | 1       |        | 39   | 144  | 長野  |
|     |    |      |      |     |    | 4      |    |              | 3       |         | 1       | 6   |    |      |       |      |      | 1      | 6     |         |        | 29   | 181  | 静岡  |
|     |    | 1    | 3    |     | 3  |        |    |              |         |         | 1       | 8   | 2  |      | 1     |      |      | 3      |       | 1       |        | 13   | 241  | 愛知  |
|     |    |      |      | 1   | 7  |        |    |              | 5       |         | 1       |     |    |      |       |      |      | 5      | 5     | 1       |        | 35   | 210  | 三重  |
|     |    |      |      | 3   | 3  |        |    |              |         |         | 1       | 2   | 8  |      |       | 11   |      | 7      | 1     |         |        | 25   | 141  | 岐阜  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              |         |         |         | 4   |    |      |       |      |      | 1      | 2     |         |        | 7    | 32   | 富山  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              | 1       |         |         |     |    |      |       |      |      | 1      | 2     |         |        | 18   | 33   | 石川  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              | 6       |         | 1       |     |    |      | 1     |      |      | 6      | 7     |         |        | 19   | 68   | 福井  |
|     |    |      |      |     | 1  |        |    |              |         | 1       |         | 2   |    |      |       |      |      | 6      |       |         |        | 23   | 84   | 滋賀  |
|     |    |      |      |     |    | 1      |    |              |         |         |         | 2   | 2  |      |       |      |      | 11     | 12    |         |        | 19   | 125  | 京都  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              |         |         |         |     |    |      |       |      |      | 5      |       |         |        | 38   | 82   | 奈良  |
|     |    |      |      | 1   |    |        |    |              |         |         |         | 5   |    |      |       |      |      | 4      | 6     |         |        | 28   | 326  | 大阪  |
|     |    |      |      |     | 6  |        |    |              | 2       | 2       |         | 2   |    |      |       |      |      | 6      | 7     | 2       |        | 37   | 112  | 和歌山 |
|     |    |      |      |     | 2  |        |    |              | 12      |         | 1       |     |    |      |       |      | 1    | 4      | 25    |         |        | 29   | 144  | 兵庫  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              |         | 1       | 1       | 3   |    |      |       |      | 1    |        | 7     |         |        | 25   | 101  | 鳥取  |
| 1   | 13 | 14   | 2    |     |    |        |    |              | 1       |         |         | 5   | 6  |      | 3     |      | 1    | 22     | 4     |         |        | 45   | 255  | 岡山  |
|     |    |      | 1    |     |    |        |    |              | 32      |         | 1       |     |    |      | 2     |      |      | 5      | 2     |         |        | 51   | 147  | 島根  |
|     |    | 1    |      |     |    |        |    |              |         |         |         | 1   | 3  |      |       |      | 30   | 18     |       |         |        | 11   | 209  | 広島  |
|     |    | 8    |      |     |    |        |    | 4            | 1       |         |         |     |    |      |       |      |      | 7      | 10    |         |        | 34   | 136  | 山口  |
|     |    |      |      |     | 2  |        |    |              |         |         |         |     |    |      |       |      |      | 5      |       | 1       |        | 24   | 112  | 香川  |
|     |    |      |      | 1   | 1  |        |    |              | 4       |         |         | 1   |    |      |       | 16   |      |        |       | 2       |        | 16   | 118  | 徳島  |
| 1   | 1  |      |      | 1   | 1  |        |    |              | 6       | 2       | 2       |     | 4  |      |       |      |      | 7      | 4     |         |        | 31   | 138  | 愛媛  |
|     |    |      |      |     |    |        |    |              |         |         |         |     |    |      | 1     |      |      | 1      | 3     | 1       |        | 16   | 54   | 高知  |
| 1   | 1  |      | 5    | 2   |    | 1      |    |              | 1       |         |         | 4   | 3  |      | 1     |      |      | 6      | 11    | 2       |        | 134  | 250  | 福岡  |
|     |    |      | 1    | 1   |    |        |    |              |         | 1       | 1       | 9   | 6  |      |       |      |      | 2      |       |         |        | 47   | 96   | 佐賀  |
|     |    | 2    |      |     | 2  |        | 3  |              |         |         |         |     | 1  |      |       |      | 1    | 11     | 6     | 9       |        | 30   | 115  | 長崎  |
| 1   | 1  |      |      | 1   | 4  |        | 1  |              | 4       |         | 1       | 14  | 1  |      | 1     |      |      | 7      | 4     | 1       |        | 77   | 225  | 大分  |
| 3   |    | 10   | 3    |     |    |        |    |              | 1       |         |         | 4   | 6  |      |       |      |      | 4      |       |         |        | 54   | 293  | 熊本  |
|     |    |      |      |     |    | 1      |    |              |         |         |         | 3   |    |      |       |      |      | 3      | 3     |         |        | 27   | 83   | 宮崎  |
|     |    | 1    |      |     |    |        |    |              | 2       | 2       |         | 2   |    |      | 1     |      |      | 2      | 4     | 1       |        | 17   | 65   | 鹿児島 |
|     |    |      |      | 1   | 2  |        | 4  |              |         |         | 3       |     |    |      |       |      |      | 73     |       | 21      | 7      | 9    | 157  | 沖縄  |
| 10  | 16 | 37   | 18   | 13  | 41 | 249    | 8  | 4            | 103     | 9       | 21      | 113 | 50 | 7    | 11    | 31   | 34   | 288    | 151   | 47      | 7      | 1197 | 6130 | 合計  |

### <山形>

山形県に多く残る土木遺産は、敷石・石畳道、石堤防で、逆説的だが一里塚が少ない（4基）。一里塚がなぜ少ないかは、今のところ不明であるが、山形県が近代に入り、三島通庸を擁して近代的な道路造りに邁進したことが、どこかで影響しているかもしれない。本題に戻り、東北地方で敷石・石畳道が多いのは山形県だけである。リストには8ヶ所記載されているが、他にもある可能性は大きい。他の地域との差は、敷石道が半数を占めている点にある。敷石と石畳の区別は必ずしも明確でないが、山形県の石敷は石が一行、かつ、離散的に置かれているのが特徴である。庭園の飛び石に似た感じである。その背景には、通行量の少なさがあったことは確実である。石畳道もあるが、幅は決して広くない。敷石道のNo.1は、黒沢峠敷石道で、1.8kmにわたり約3600枚の矩形状の石が延々と並んでいる様は壮観である。石堤防と、治水関連の遺産が入るのも、山形県の特徴である。全国的には少なくないが、東北では唯一である。リストには4ヶ所記載されているが、他県と比べてもひけを取らないのは、最上川の谷地河原除（通称、直江石堤）で、現役ではないが、1.2kmに渡って上部幅5m、高さ2mの河原石を台形に積んだ石積堤防が残っている。なお、直江の名は、築造者の直江兼続に由来している。

その他の遺産として、独自色の強いものは、庄内砂丘を掘り割って造られた日向川の新川開削である。砂丘そのものが低いいため、人工河川という感じは、日本の代表例である広島県の賀茂川の切通しに比べれば乏しいが、東北地方における貴重な実践例である。

### <福島>

福島県に多く残る土木遺産は、一里塚、特殊道標、渡船場であり、何れも、福島特有のものとはいえない。ただ、一里塚は54基を数え、岩手県に次いで全国2位と残存数が多い。一対で残る塚が多く、当初の塚木が残る例も八槻一里塚、台宿一里塚のように若干は存在する。特殊道標とは、地藏道標、供養塔兼道標、庚申道標のような仏教・道教由来の建立物が、道標を兼ねているものを指す。全国的に、かなり偏った分布を示すが、決して珍しいものではない。福島県は、東北地方で唯一この種の道標がもともと多い、もしくは、たまたま多く残ってきた県である。渡船場の多寡は、街道とある程度の幅を有する河川の地理的關係に強く依存しているが、県下では8ヶ所がリストに入っている。中でも、鮎滝渡船場は、石畳から河原の低床加工された石まで一体化して残る希少な例である。

その他の遺産として、野馬土手が1ヶ所確認されているが、千葉、長野のような広域的な広がりには、残っている遺産からは確認できていない。

### <新潟>

新潟県に多く残る土木遺産は、一里塚、特殊道標、河川隧道・開削であり、このうち前二者は、新潟特有とはいえない。ただ、17基ある一里塚の中で、栄山の一里石だけは、日本側の急崖地にあつて、一里塚を築く余地がなかったため、2個の石で代用し

た珍しい事例である。河川のトンネルは、なだらかな山間部にあつて屈曲した河川の多い新潟県南部に近世～近代を通じて50以上のトンネルが造られ、屈曲部を農地化した特異な事例として大熊ら<sup>5)</sup>により報告されている。全国でも、新潟と千葉だけの特徴ある存在と言えるが、新潟の方が山が深いだけに、より規模が大きい。ただ、山間部の耕作放棄の進行に伴い、最も大規模な東川の河川隧道も、今ではアクセスがきわめて困難になっているのは残念なことである。道路沿いの相川川の河川隧道が、最も確認しやすい。

その他の遺産として、如何にも新潟らしいのは、かつて日本随一の石油産地であつたことを物語る煮坪であり、新津油田の発見のきっかけともなった。次いで、江戸期にわが国最大の金山であつた佐渡金山には、当初の露天掘りの跡である道遊の割戸や、観光坑道として開放されている宗太夫坑ほか、角行坑・大山行坑などの坑口が並んでいる。

### <群馬>

群馬県に多く残る土木遺産は、古代～中世の道路跡、温泉遺産であり、何れも、他の県とは一線を画している。古道の残りのいい県は、西日本に多いが、関東地方では群馬県が一番で、中でも推定東山道駅路は、東山道の遺構を現代に見える形で整備した珍しい例である。ただし、現状は、隣接するグランドの駐車場と化し、植木も育ち過ぎて古道の趣は伝わってこない。これに対し、草津と天明大笹の2つの温泉遺産は、この種の遺構が熱海や別府のような大温泉地にも見られないこともあつて、特筆すべき存在である。一般的には草津温泉の中心にある御汲上げの湯杓、湯滝の燈籠が有名であるが、より土木的なものは、浅間山の噴火に伴って築かれた天明大笹温泉引湯道で、約400mにわたる石畳状の温水路が山中に残されている。

その他の遺産として、一つあげるとすれば、現役の農業用水路である雄川堰の雁木群と、その上流にある吹上の石樋で、特にこの石樋は長さ6mの巨石を用いた石桁水路橋であり、大量の水漏れがありながら、現役で使われている稀有な例である。

### <栃木>

栃木県に多く残る土木遺産は、一里塚、並木、特殊道標と、何れも、栃木特有のものとはいえない。ただ、一里塚35基は、関東地方としては異例に多く、かつ、小金井一里塚のように、一対で塚木のあるものも幾つかあり、存在感を発揮している。ただ、何といっても素晴らしいのは、日光東照宮に関わる杉並木の群を抜いた立派さで、日光街道、例幣使街道、会津西街道の3街道37kmの両側に12,500本弱の杉がオリジナルの状態に残っている例は、全国的にも唯一の存在である。中でも、前二者は保存状態も非常に良く、日本を代表する並木道である。その壮大さと比べると、非常に小粒ではあるが、県下に残る特殊道標は、小山市の六手観音道標に代表されるように、一見とても道標とは思えないようなものが相当数に達する。水田地帯に行くと、幾つもの石碑が一行に並んでい

て、その中に移設された道標が混じっているのも、この地域の風土なのであろう。

その他の遺産として、地域性の高いものは、石灰岩の日本有数の産出地である佐野市に残る、最古の石灰かま跡である。

#### <茨城>

茨城県に多く残る土木遺産は、特にない。ただ、少数とはいえ、他にない土木遺産が存在しているのが特徴である。

茨城県の地勢的な特徴は、大きな沼が点在して、いわゆる水郷地帯が形成されていることである。この水郷地帯には、かつて江間と称する水路が縦横に走っていたが、現在、教育委員会に確認できた範囲では、地元の人が「当時のもの」と認める水路は一つも残っていない。農業農村整備事業などの土地改良が、効率化のもとに、歴史性を全く無視して行われてきた結果である。唯一残る遺産としては、勘十郎掘跡があるが、保存状態は決して良くはない。もう一つは低湿地の稲作としての掘り下げ田、掘り上げ田であるが、これも、後者は姿を消し、前者もかつては神栖市の国道124号沿いに残っていたが、非水田化され、東松下地区に唯一現役の掘り下げ田が残るのみとなってしまった。水戸の笠原水道は、光圀公の仁政の証として重要な施設であるが、現在確認できるのは、石樋の上端部の一角に過ぎない（一部の解体石材は保管されている）。ろ過しながら石樋にも水を浸透させたかのように推測できる構造はユニークであるが、同じ光圀公の山寺水道と合わせ、「見える」遺産とはほど遠い。

#### <千葉>

千葉県は、東京近郊という割には、特徴的な土木遺産が数多く残っている。道標、河川隧道（川廻し）、飼馬施設がその代表である。道標は対象となるものだけでも445基にのぼり、全国最多。しかも、装飾的な変形道標の宝庫で、市原市にある椎津の馬乗り馬頭観音像道標は、頭部が大きく飛び出した馬の上に、三面の八手観音に乗るといふ彫像美術としても見事な道標で、全国でも最も異色の存在である。また、河川隧道、地元用語で言う川廻しは、房総半島南部の川が極度に蛇行している関係もあって、随所に造られているが近世・近代の区別がほとんどつかないのが現状である。従って、確実に近世のものらしい川廻しの数は少なく、中でも最も完成度の高いものは笹川の川廻しである。全国でも河川隧道が多く残るのは新潟と千葉だけだが、新潟のものがすべて自然に帰りアクセス困難になっている現在、公園化され、大断面のトンネル内を滝状に川が流れる笹川の川廻しは、全国一の存在である。3番目の飼馬施設は、捕込（捕獲施設）11ヶ所、野馬土手（囲い）227ヶ所にのぼり、全国の飼馬施設の98%を占めている。ただ、価値認識が進み県内全域の調査が行われたのが2006年と新しく、文化財指定もほとんどされていないことから、破壊が進行中である。捕込では、国史跡となっている下総小金中野牧の捕込場が、土手では無指定の九美上の野馬土手が最も見事であろう。

#### <埼玉>

埼玉県に多く残る土木遺産は、一里塚、道標、河川堤防（土



写真-2 笹川の川廻し（撮影：馬場俊介）

堤防）である。一里塚は10基に留まるが、東京近郊ということ考えると多く、蒲生一里塚のように、市街地にもかかわらずケヤキの巨木が残っている例もある。道標は、千葉ほどではないが、宮内の庚申塔道標をはじめ、なかなか凝った彫像美術品が、道標を兼ねているケースが多い。他の県にない埼玉の大きな特徴と言えば、河川の土堤防（ほとんどが非現役）が全国で最も多く残っている点であり、これは徳川幕府の基盤であった江戸を含む東国という地理的条件と切り離しては考えられない。万平堤、石田堤、中条堤（現役）などが代表的存在だが、他地区の河川堤と異なり石材が使われていない点が特徴である。

その他の遺産として、地域性の高いものは、伊勢根の鎌倉街道上道跡、見沼通船堀、黒谷の和銅採掘露天掘跡、瓦曽根の溜井、七曲井である。伊勢根の鎌倉街道上道跡は、県内数ヶ所に残る鎌倉街道の中で最も保存状態の良いもので、全国的にも珍しい。見沼通船堀は、わが国で3番目に古い運河開門で、木製では最古、復元だがイベントにも使われ、見沼通船堀自体のもつ歴史的な意義と絡めても重要な存在である。黒谷の和銅採掘露天掘跡は、和銅元（708）年という年号とも合致する記念碑的存在で、観光客は多くはなさそうだが、整備は行き届いている。瓦曽根の溜井は、川を堰き止めた一種の農業用貯水池であり、この地域特有の発想で造られた独自の施設である（中でも、保存状態が最良）。最後の七曲井は、東京都に多いまいまいず井戸の北限であり、規模は小さいが、その地域性からリストアップした。

#### <東京>

東京都といえば、奥多摩を除きほとんどが市街化され、近代は別として、近世以前の土木遺産などほとんど存在しないように思われがちかもしれないが、実際には、多くのすぐれた遺産を、良好な保存状態で見る事ができる。数が特に多いものはないが、東京独自のものを列挙すると次のようになる。道標：石橋迷子しらせ石標、郷倉：葛飾の郷倉、上水：玉川上水、井戸：五ノ神まいまいず井戸、青梅新町の大井戸、台場：品川第三台場。石橋迷子しらせ石標は、実際には道標ではないが、他に区分がないし、形態が道標に似ているので道標に入れてある。江戸の中心部に立てられた迷子揭示用の石柱で、100万都市江戸ならではの存在である。葛飾の郷倉は、

非常時の食糧を蓄える萱葺の木造倉庫で、西東京市の稗倉、旧下里村穀櫃と都内に 3 つ残る郷倉の中で、最も昔日の姿を残している（郷倉が複数残るのは、東京と山梨）。玉川上水は、世界の水道史の上からも重要な存在であるが、それが記録として残るだけでなく、小平市周辺では関東ローム層の土擁壁の表面に大樹の根がアンコール地区のタ・プローム寺院の石壁を思わせるように絡み合い、壮観である。五ノ神まいまいず井戸や青梅新町の大井戸は、東京特有の螺旋井戸の代表で、特に前者は、鎌倉期のものが羽村駅前に県史跡として保存されている。品川第三台場は、ペリー提督の 1 回目の渡来に対し、突貫工事で造られた海上台場で、「お台場」地区のシンボルに加え、日本史上、かつ、当時の技術力を見る上でも貴重な存在である。

### <神奈川>

神奈川県に多く残る土木遺産は、特殊道標、切通し、防波堤であり、後二者が特徴として挙がってくることは珍しい。そこに神奈川の独自性がある。最初の特殊道標も、他県と違い、大山道標が集中している点に特徴がある。大山道標は関東一円から大山阿夫利神社に向かう 20 本以上の大山道に立てられた道標で、柱の頂部に不動明王像の載ったユニークなものだが、神社が神奈川県にあることから県下に特に多い。切通しは、天然の要害とも言える鎌倉に入るため 13 世紀前半に開削「鎌倉七口」の切通しと、鎌倉エリア内の切通しに分かれ、リストには 9 件あがっている。鎌倉七口の中では朝夷奈切通しが飛び抜けて規模が大きく、次いで、亀ヶ谷、名越の切通しが旧状を留めている。一方、エリア内では、巨大な素掘りトンネルを含む釈迦堂口切通しに圧倒的な存在感がある。このトンネルは、通行可能な日本最古の道路隧道である。道路隧道という観点では、横浜市内に 14 世紀前半のもの（通行禁止）も残っており、神奈川の大きな独自性となっている。防波堤は、数こそ少ないが、防波堤らしさを感じさせる残石遺構としては最古の和賀江嶋築港跡（1232 年）と、近代の幕開けを告げる横浜港の象の鼻（慶応年間）の双方が存在している点が、色々な時代に海運の要であったことを示す証拠として意義が高い。

その他の遺産として、箱根街道石畳は、修景的復元ではあるが、箱根街道杉並木と並んで芦ノ湖周辺の観光的魅力の一翼を担っている。また、深良用水は延長約 1.3km という長さもさることながら、芦ノ湖の水を、峠を抜いて静岡側の灌漑に用いたという壮大な構想で有名である。両坑口とも改修されて面影が全くないのは残念である。

### <山梨>

山梨県に多く残る土木遺産は、郷倉、武田信玄の治水遺産群である。郷倉は米の備蓄庫であり、リストでは 3 ヶ所しかないが、これでも特異的に多いと言える。ただ、何と言っても山梨の土木遺産は、信玄に負うところが大きい。上流の石積出し、その下の将棋頭、本流の雁行堤・霞堤という一連の優れた治水システムが一人の戦国武将の名で造られ、それが、非常に良い保存状態で残っている点は、治水を本務とする日本の誇りと言ってよい。

その他の遺産としては、甲斐の猿橋、河口湖掘抜の 2 つが特筆に値する。前者は、錦帯橋、愛本橋と並ぶ日本三奇橋の一つとして有名な木造刳橋で、復元の厳密は欠いているが、似たような形のものが現存することに意義がある。河口湖掘抜は、全長約 3.9km、近世以前の日本で最長の隧道である。それ以上に、この用水がユニークな点は、トンネルがほぼ一定勾配で造られずに、褶曲した岩層に沿って掘っていったため、垂直方向にかなり上下した流路となっている点にある。このことは、この長大な用水隧道の中を流れる水は、自然勾配ではなく、サイフォンの原理によって流れていたことを示している。技術史の上から見ても、特記すべき存在である。河口湖の高い水位が、くり抜いた岩盤という一種の管路内での圧力送水を可能にしたのであろう。

### <長野>

長野県に多く残る土木遺産は、一里塚、隧道・切通し、飼馬遺構、石堤防、井戸である。一里塚の 21 基という数は、これより西では最多の数である。高地が多いため、全体に保存状態は悪くはないが、塚木がしっかり残っているのは御射山神戸一里塚くらいである。隧道・切通しは、日本随一の山岳地帯らしく、5 件を数える。中でも、善光寺街道の青柳の切通し・小切通しは、巨岩を垂直に絶ち割ったダイナミックな構造が印象的である。飼馬遺構は、全国一の千葉県に比べれば残数僅かに 3 であるが、そのすべてが平安時代という点に特徴がある。全国でも、平安時代の飼馬遺構は、他は宮崎に 1 ヶ所あるだけである。3 ヶ所の中で、長倉の牧が最も壮大だが、御牧上の野馬除も時代を考えれば良く残っている。石堤防は、全国的にも残存数は少ないが、千曲川の羽毛山堤防は延長 576m、高 8m の現役の河川堤防であり、他に例を見ない規模である。また、大夫千両堤は、非現役・小規模だが、福島正則が築いた幕府誕生直前の堤防遺構である。井戸は、松本市の地域的特徴であり、源智の井戸をはじめ市内に多くの井戸が散在し、名水として日常的に使われている。

その他の遺産としては、大綱橋の吊橋跡（巨岩に綱を結んだ溝が残っている）が、谷の深い地形を物語る長野らしい遺産である。

### <静岡>

静岡県に多く残る土木遺産は、石畳、常夜灯ときわめてありふれた内容となっている。石畳はすべて東海道筋で、箱根坂、菊川坂、金谷坂に残っている。箱根坂は、神奈川県側に比べ保存状態は悪いが、逆に、峠付近はオリジナルである。常夜灯は浜松市だけで 45 基がリストにあり、これらはすべて秋葉山常夜灯である。防火の神であった秋葉山信仰に係る常夜灯群は、遠州（静岡西部）と三河（愛知東部）に集中して残る地域性の高い遺産群である。

その他の遺産としては、上記 2 点と違い、裏山の切通し、龕附天正金鉾坑、葦山反射炉、天寶堤と個性のあるものが揃っている。裏山の切通しは、道幅約 1m、切通し高約 10m という隘路のような場所で、全国的にも他に例を見ない特異な

形態で、しかも、地域の歩道として現役で機能している。龕附天正金鉱坑は、かつて 10 ヶ所以上に上った伊豆の金山の中で、唯一旧状を残すものである。江戸期の津波により封印され、戦後になって土砂を掻き出して姿を現したもので、当時の状況が改変を受けないまま残っているところが素晴らしい。葦山反射炉は現存する唯一の近世の反射炉である（萩反射炉は試験炉）。天寶堤は、修築年である天平宝字 5（761）年に因んだ命名で、5 世紀頃と伝えられる大阪の茨田の堤に比べれば後年になるが、茨田の堤が修築をくり返してきたのに対し、後補があまりないとされる。しかし、わずか長さ 17.5m、高さ 1.2m という規模は、昭和初期に長さ 450m あったと言われることを考えると、昭和期における価値認識の欠如が残念な結果を生んだ。

#### <愛知>

愛知県に多く残る土木遺産は、三河の秋葉山常夜灯、それに、少し数は減るが、尾張の渡船場の常夜灯と一里塚があげられる。三河の秋葉山常夜灯群は、リスト中だけでも 32 基あるが、中には、調査中偶然見つけたものも幾つか含まれ、実際にはもっと多いと推定される。他地域と比べて、これらの常夜灯の幾つかは、今でも「生きている」という感じがするのが特徴で、夕方になるとロウソクが点灯されるもの（電球の点灯はあっても、ロウソクが使われている例は皆無に近い）、常夜灯のすぐ脇に消防団の車庫、火の見櫓があるもの（2 基、秋葉山は前述のように防火の神）などが実在する。渡船場の常夜灯は、対岸にあたる岐阜県側にも残るが、この両県において除き集中例がなく、地域的な特徴と言える。一里塚、なかでも、名古屋の市街地に残る笠寺一里塚は、当初の原木が残る西限にあたる。

その他の遺産としては、御油の東海道松並木、堀川、長沢「フロノ下」の猪垣、御囲堤、忠平猿尾などが特筆すべき存在である。御油の東海道松並木は、松枯れ病が広がる関東以西で唯一残る本格的な松並木で、600m にわたり 60～70 本程度が残っており（残りは補植）、国の天然記念物である。堀川は、清洲から名古屋への遷都の際、福島正則により開削された全長約 6km の運河である。長沢「フロノ下」の猪垣は、周囲 235m の「輪中」型の猪垣で、通常の猪垣が山際に直線状に造られるのと比べ、特異な形態をとっている。御囲堤は、徳川家康が尾張国を木曾川の洪水から守るため築かせた全長 47.1km の大堤防で、何度も嵩上げがくり返された（その分、美濃川の被害が大きかった）という歴史的経緯を有する。現在は堤防として機能しておらず県道として使われているが、一宮北部・尾西市西部は桜の名所となっている（国の天然記念物）。忠平猿尾は、御囲堤を守るために築かれた猿尾中の最大級（全長約 500m）のもので、最近「発見」され、その保存法が検討中である。

#### <三重>

三重県に多く残る土木遺産は、世界遺産になっている熊野古道（伊勢路）の石畳道、伊勢街道・伊勢別街道沿いの大型常夜灯があげられる。熊野古道は、和歌山側と三重側とでは様相がかなり異なり、伊勢路と総称される三重側の方が、規模・保存状態とも勝っている。中でも、代表的なものは、鎌倉期の敷設がほ

ぼ確定している波田須道の石畳、規模と保存状態が最良の松本峠の石段・石畳である。松本峠には、沢を跨ぐ石桁橋の上流に砂留も築かれており、江戸期の技術水準を知る手だてとなる。常夜灯は大型のものが多く残るが、中でも窪田常夜灯は高さ 8.6m と集落内の常夜灯としては全国で最も高く、隣の 2 階家を巨大さに圧倒される。

その他の遺産としては、伊勢神宮と伊勢白粉と強く結びついた丹生水銀の間歩群が、三重らしい遺産と言えよう。個々の間歩は小規模ではあるが、中世における辰砂の一大産地としての意義は大きい。

#### <岐阜>

岐阜県は、南部の美濃と、北部の飛騨では気候・風土が全くことなる。まず、美濃に多く残る土木遺産は、木曽三川の下流側から、洪水遺産、土堤防・猿尾、渡船場の常夜灯、舟着場であり、これに東濃の中山道石畳、同一里塚が加わる。飛騨には、個性的な遺産はあるものの、集団として残るものは、郡上八幡の水路・湧水くらいである。洪水遺産の代表は、万寿新田のお灯明さまと本阿弥新田の助命壇である。前者は、輪中堤が決壊した場所に、「二度目の決壊がないように」祈念して立てた灯籠風の石柱、後者は、輪中堤が決壊した際に逃げ込む高台であり、いずれも輪中と密接な関係にある。土堤防の代表は、薩摩藩による宝暦治水で有名な油島千本松締切堤、そして、猿尾の代表は現役の石田猿尾（長さ約 360m）と、公園化したため石積みが確認できる前渡猿尾（長さ 286m）である。渡船場の常夜灯は、前記愛知県側とほぼ同数の存在が確認されている。舟着場では、兼山湊が岸に降りる石畳、崖上の常夜灯がセットで残り、全国でも群を抜いた保存状態の良さである。中山道石畳では、琵琶峠、落合ほか幾つかの大規模石畳が残り、石畳としては恐らく全国でも最も観光化しているが、それらの多くが後補である。一里塚は中山道に沿って残っているが、当初の原木までは残っていない。郡上八幡の水路・湧水は、この地域だけの特色ある文化で、水舟・小径・宗祀水などの湧水が集中して存在する。

その他の遺産の多くは飛騨に集中している。すなわち、位

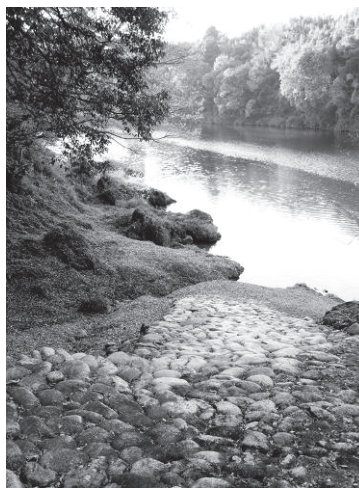


写真-3 兼山湊の石畳（撮影：馬場俊介）

山道石畳、舟橋跡の綱株岩、車田、中綱場御番所の綱株岩などである。位山道石畳は、地元の教育委員会では東山道飛騨支路と位置付け、石畳の敷設年代も中世（最も古い場合は平安期）と推測している。異論はあるが、もしこの推測が正しければ、わが国でも最古級の石畳道といえる。一方、綱株岩が2つ入っているが、一つは交通遺産、もう一つは林業遺産である。このうち、後者は、川に流した御用木を張り渡した長さ170mの綱で止め、木材改役人が一丁ずつ改めるために綱株岩が使われたことは文献上も確定しているが、前者の「舟橋」には疑問が残る。それは、地元の教育委員会では「筏を並び結わえた舟橋」としているが、文献上の根拠は一切なく、もしこのような構造だと、至近距離にある中綱場御番所に流れてくる材木がぶつかることは必定であるし、そもそも、溪流部に筏橋を架けて、それを綱でつないでただけで、流水圧に耐えるかという問題もある。個人的には、吊桁橋（2本の綱の間に板を渡しただけの最も原初的な構造）ではなかったかと思っている。ただ、構造の詳細は別として、いずれも、綱を固定できるような溝の付いた巨石が残っており、山国らしい遺産である。最後に、松之木の車田は、伊勢神宮への神供米を栽培する場所であった（直径16m）。全国で円周状に植える水田としては、他に北鶴島（佐渡）のものがあるが、円形ではない上に目的も異なる。

#### <富山>

富山県に多く残る土木遺産は、調査が不十分なせいか、現在のところ特筆すべきものはない。

その他の遺産としては、神通川常夜灯、佐々堤と済民堤と殿様林、龍ノロサイフの石管、生地台場の4点があげられる。神通川常夜灯は、近世日本で最も有名な舟橋であった「越中富山の神通川舟橋（64隻）」の転落防止のため橋の両側に1基ずつ立てられたものが、河道が移動して市街地となった現在も当時の位置に残っている。佐々堤は、戦国武将・佐々成政により造られた常願寺川石堤がごく一部残ったもの、済民堤は安政の大地震で破壊された佐々堤を、地元の人々が再建したもの、殿様林は佐々堤前後に残る水防林である。各時代の富山の水防の歴史が、1ヶ所に固まって残っている点に価値がある。龍ノロサイフの石管は、逆サイフの原理で谷を越えて送水するための石管で、全部で58本（凝灰岩製、63.6m分、水通し部内径21cm）が造られ、そのうち半数程度が2ヶ所に分けて保存してある。生地台場は、幕末に造られた土塁式の平凡な台場の一つであるが、海に直接面し、かつ、保存状態の良い点が異例である。

#### <石川>

石川県に多く残る土木遺産は、金沢の用水路である。逆サイフと取水部の隧道で有名な辰巳用水、都心部を流れ観光名所になっている大野庄用水が、その代表格である。ただ、辰巳用水の隧道は、取水口付近のダム工事で水没してしまうため、代表は大野庄用水ということになる。風景としてはきれいだであるが、その他の用水を含め、雁木、石橋、水門などの付帯施設が少ない。

その他の遺産としては、水路隧道、福浦湊の目繰りと方角石がある。前者は、辰巳用水の隧道に代表されるように、高い技術を誇るもので、舟尾川のマンボ（全長約700m、2本）として結実した。福浦湊は北前船の寄港地で、急崖に数多くの目繰り（繋船用の岩の輪）だけでなく、方角石も一体として残っている。この場合の主役は、崖の頂部にまで残る目繰り群の存在である。

#### <福井>

福井県の特徴的な土木遺産は、運河と台場である。特に、運河は重要で、日本海と琵琶湖を結ぶ運河計画（疋田舟川）の名残り（修景された水路）と、三方五湖の運河群（前川、浦見川、嵯峨隧道、堀切川）が福井ならではの遺産である。前者の計画は、古くは平安末期に遡るが、実際に着工したのはこれが初めてで、当時の技術水準から、舟を引き上げる方式であった。2番目の台場は、全国どこにでもあるが、国史跡の多さでは鳥取県に次いでいる。

#### <滋賀>

滋賀県に多く残る土木遺産は、常夜灯と石桁橋である。常夜灯では、東海道の横田の渡しに造られた常夜灯が群を抜いて大きい（高さ8.1m）。石桁橋は、岐阜県西部辺りが「凝った太鼓橋」の東限にあたるが、滋賀県に入るとそれが広く普及する。タイプとしては、半円に近い円弧状の桁橋（大多数）と、日吉大社の大宮橋という特異例とに分かれる（何れも、材質は花崗岩）。後者は、花崗岩を木材のように扱って組み合わされた全国的にも唯一の橋であり、国の重要文化財に指定されているだけの価値は十分にある。

その他の遺産としては、逢坂越の車石、八幡堀、四ツ子川の百間堤が出色である。逢坂越の車石は、博物館前に再現された展示でしかないが、日本にもかつて牛車用の軌条道があったことを示す貴重な遺産であり、京都側が立体彫刻的なモニュメントになっているのに対し、往時の姿を彷彿とさせる点が優れている。八幡堀は商業都市・近江八幡を支えた運河であり、一時は駐車場となろうとしていたのを住民が食い止め、現在ではヴォーリス建築と並んで観光の中核を担っている。四ツ子川の百間堤は、全長180m、幅8mの石塊堤（頂部水平、法面垂直）で、全国的に例を見ない特異な構造であ



写真-4 四ツ子川の百間堤（撮影：馬場俊介）

る。築造時期自体は江戸末期であるが、基部に使われた巨大な石材には江戸初期特有の矢穴跡もあり、謎の多い構造物である。

#### <京都>

京都府に多く残る土木遺産は、京都市、及びその周辺の道標群と、京都市内に断続的に残る御土居遺構である。道標の中では、楊谷寺参道の町地蔵群（24 基）がユニークである。御土居は、豊臣秀吉によって京都の都市計画の一環として造られた延長 23km の防塁であり、洛中を、土堤防である御土居と、その外側に造られた堀で守っていた。現在、御土居と堀が一体となってよく保存されているのは、大宮の御土居だけであるが、その他にも、市北部に散在して残っている。数も多いが、京都以外では見られないという意味で、特異性も高い。

その他の遺産としては、西大谷の円通橋、高瀬川の一之船入と、何れも京都市内の施設があげられる。現在の京都府は、歴史的見ても京都市以外の地域は小さな荘園、領主に治められていたため、大きな事業ができにくく、それが京都市に集中する遠因なのかもしれない。円通橋は、近世以前で唯一の 2 連の真円（全円）アーチ橋であり、硬質の花崗岩を精緻に加工し、高欄に至るまで美意識を貫いた傑作である。高瀬川の一之船入は、角倉了以による高瀬川の開削と高瀬舟の運航の歴史を今に伝える唯一の遺構である。視点場が確保されていない点が、非常に残念である。

#### <奈良>

奈良県に多く残る土木遺産は、古代道路遺構、条里制遺構、井戸、戦国期の環濠集落である。古代道路遺構は、平城京朱雀大路跡のような発掘・再現されたケースや、大和郡山の下ツ道のように、現存するものの 2 つの道に分かれ、当時の「広幅員」が視認できるだけといったケースまで様々である。また、存在に疑問符の付いているものもある。条里制遺構の水田は、発祥の地だけあって方々に残っているが、思ったほど整形を留めていないのが印象である。井戸は、三井（7 世紀）、薬井（弘法大師=8・9 世紀）など、古い伝承を持ったものが存在する点に、奈良らしさを感じられる。戦国期の環濠集落は、襲撃に備えて農民が自らの居住地を濠で囲んだもので、全国でも奈良県に集中して残っている。時代の流れもあり、集落を全周しているものはないが、竹之内、南柳生、萱生などが比較的良好な状態で残っている。一方で、稗田、藤森のように修景整備が進み、美化されすぎたもの、池尻、有井のように排水路と化してしまっているものなど、保存の方法に今後の課題が強く感じられる。

その他の遺産としては、益田池の土堤と木樋管遺構があげられる。平安初期（822 年）に着工されたと伝えられる全長約 200m（現存 55m）の土堤で、同時代の木樋管も展示されている。この時代の溜池遺構は少なく、貴重な存在である。

#### <大阪>

大阪府に多く残る土木遺産は、常夜灯（86 基）、道標（177 基）を除けば、土堤防であり、これが大阪の特徴とも言える。最も古いのは、古墳時代に築かれたと記されている茨田堤の遺

構とされる伝茨田堤であり、2 番目は 7 世紀前半に築かれたとされる狭山池の博物館内での切断面展示、そして、江戸時代の代表的な治水事業である大和川の付け替えに伴う、旧堤防の遺構（八尾高校内）と、旧河道の締切堤（築留）などがあげられる。

その他の遺産としては、雪鯨橋、太閤下水（背割下水）の 2 つがあげられる。前者は、高欄が鯨の骨で作られた日本でも唯一の石桁橋であり、後者は太閤秀吉の碁盤目状の城下町建設に伴い造られた開渠の下水溝（素掘り）で、江戸後期に現在のような石積水路にされ、明治中期以降に暗渠化された。現存する下水渠は約 20km であり、そのうち 7km が市の史跡に指定された。現在中に入って見ることでできる姿は、江戸後期以降のものではあるが、16 世紀末から下水渠そのものが造られ始めたことは確かで、18 世紀半ばまで無蓋の下水渠が使われていたロンドンと比べても遜色ない存在と言える（イギリスでは 1531 年に下水道法が施行された）。世界と比較して過剰評価は慎むべきだが、日本国内においては、時期・規模ともに先端的かつ最大規模の事例と言って間違いはない。

#### <和歌山>

和歌山県に多く残る土木遺産は、世界遺産になっている熊野古道の石畳道、道標（高野山町石）である。三重県の項で記したように、和歌山県側の熊野古道は、都と熊野を結ぶという点ではより「本家」に近いが、残存している石畳道の規模は若干小規模である。鎌倉時代由来とされるものは、神倉神社石段と那智の滝の石段とされるが、いずれも街道石畳の範疇からは外れている。ただ、オリジナルの形態を残すと言われる神倉神社石段の荒々しくも急勾配な 538 段の乱積石段の迫力は凄まじい。他では、江戸期の大門坂（654m）が最も有名である。一方、これも信仰と結びついた高野山町石は、独特の形をした道標で、当初立てられた 216 基の石柱のうち 150 基が残っている。

その他の遺産としては、大仙堀、ホリキリ、古式捕鯨遺産などがある。大仙堀は長さ 120m ほどの短い運河兼船着場跡でしかないが、日本の醤油伝来・発祥の地としての歴史性、風景としてのまとまりを考えれば、和歌山らしさの一つの例と言えよう。ホリキリは、静岡県 の 裏山の切通しの水路版であり、高さの割に狭い切通しが異例である。だが、真の和歌山らしさを伝えているのは、灯明崎狼煙場、山見台、連絡所（何れも再現）からなる古式捕鯨施設群である。他県では、今のところ、類似のものは一切発見されていない。

#### <兵庫>

兵庫県に多く残る土木遺産は、稲美の溜池、間歩、台場である。このうち稲美町は、町の面積の 12%が溜池という特異な場所で、丘陵地で稲作を行うために多段式に多くの溜池が築造され、町としてもそれを積極的にアピールしている。中でも、江戸初期にできた加古大池は、5 つの池が集合してできた県下最大の規模（49ha）をもつ池で、長大な土堰堤もさることながら、池同士の間に設けられた細い通路の存在と、

レクリエーション目的での利用度の高さが、各地にある溜池と比較して特筆に値する。間歩の主体は生野銀山であり、石見銀山との関連も強い（石見の後進的な面が強い）。台場は兵庫県最大の特徴で、普通の幕末タイプの石台場、松帆台場のような臨検用の船のための湊付き台場、西宮砲台のような全く形状の異なるものの3つに分かれ、数も多い。

その他の遺産としては、加古川開削の遺構、大和田泊の石棕と明石の古波止、明石と今津の灯明台、上太田砂防堰堤、関伽井と数が多い。加古川開削の遺構のうち、市場付近の開削は、明治期の関龍灘に匹敵する戦国末期の河川開削で、他にも、関龍灘上流にも、はっきりと開削跡が分かる形で残っている。こうした痕跡が残るのは、川床に流紋岩の岩塊が露出する加古川特有の事情によるものであるが、全国的にも稀で、リストでは他に宮崎県の観音瀬水路（江戸中期）がある程度である。大和田泊の石棕は、平安初期に造営された大和田泊の防波堤の石材であり歴史的な意義は高いが、1952年の発見当時見つかった20数個の巨石のうち1個だけが展示してあるのは寂しい限りである。明石の古波止は慶長19（1614）年の築造と思われる現存最古級の防波堤であるが、ほぼ水中に没している。明石と今津の灯明台は、瀬戸内海という近世の幹線交通路に面していたという地域性をよく示すもので、前者は石造・非現役、後者は木造・現役（復元）である。上太田砂防堰堤は、地元では江戸時代と推定されているが、緩傾斜の空石乱積構造から、恐らく間違いないと思われる。福山藩以外の砂留は、街道付属のものを除けば、ほとんど例がない。関伽井は天平9（737）年築造のものを復元した古井戸で、丸味を帯びた石材がユニークである。

### ＜鳥取＞

鳥取県に多く残る土木遺産は、石畳道、大山信仰の遺産、台場である。石畳は多くの県に残っているが、鳥取県のは小規模なものが多い。ただ、大山信仰にかかわる大休峠の石畳と、大山寺参道の石畳は、ともに細長い石を交える独特の石組が特徴である。大山信仰に関しては、松並木、道標等も残っているが、中でも他に例のない遺構は、博労座、すなわち、大山の祭りに開かれた牛馬市の跡である。台場は、鳥取藩の命で長い海岸線に沿って点々と築造された一群のものが、保存状態の良し悪しは別として、国史跡という形で残っている点に特徴がある。中でも最大のものは由良台場で、わが国の土塁式台場の典型例と位置付けられる。

その他の遺産としては、菊港の西堤、佐野川用水の弁天岩隧道、湖山池の石がま、嵐ヶ鼻土手があげられる。菊港の西堤は、丸石を傾斜堤風に積んだ珍しい形式の防波堤で、長さ90m、保存状態も良い。佐野川用水の弁天岩隧道は、全国に多い灌漑用水トンネル（長さ159m、高さ1.98m）であるが、内部高から分かるように容易に歩行でき、地元の小学校の地域学習の場となっている（実際に、中を歩く）という意味で、著名な存在である。石がまは、九州・沖縄に多い魚垣と違い、人頭大の石を密に並べた小島（径8m位）で、隙間に潜む魚を棒でつついて捕獲するのに使われる。湖山池にかつて80基ほどあったものが、2003年の段階で4基になっている。嵐ヶ鼻土手は、鳥取市内の

千代川の治水のために造られた左岸土堤で、全長700mほどで広葉樹に覆われ散歩道になっている。

### ＜岡山＞

岡山県に多く残る土木遺産は、石桁・石刳橋、舟着場、港の常夜灯、干拓樋門、井戸である。花崗岩の石桁橋は、岡山市内に網の目のように造られた用水路に数多く架かっているが年代が特定できない。時代がはっきりしていて規模の大きなものは、秀天橋（9連）と岡山藩校の泮池橋（4連）である。石刳橋も、8基確認されているが、最大のものは水迫橋で、山口県に多い2タイプの石刳橋の何れとも異なるユニークな刳構造を特徴とする。舟着場の現存数が多いことは全国一で、それは日本の高瀬舟の原点が吉井川舟運にあることや、日本最古（14世紀初頭）の川浚い遺構である笠神の文字岩（国史跡）があることから裏付けされる。中でも新見の三日市舟着場は、保存状態も非常に良好である。港の常夜灯が数多く保存されていることも異色で、特に田の口港防波堤の常夜灯は、港の東西の両防波堤の先端に、各1基ずつ別形式で年代も異なる常夜灯が残っている。干拓樋門は、近世最大の沖新田を有する干拓藩・岡山にとって必須の構造物であり、すべてが良質の花崗岩で造られているため、人為的な破壊がない限り保存状態は良好である。県内最古の神崎分水樋門、国内最大級の巨石樋門である内尾大水分門など、近代の児島湾干拓樋門群に比べても、存在感は圧倒的である。井戸は現・旧海岸沿いの各地に残っているが、直径2.82mの八角形のつちえの井戸が、代表的である。

その他の遺産としては、大多府港の元禄防波堤、吉井水門、建部井堰、鏡の州用水湧水池、田原用水の旧懸樋、奴久谷大滝、友延新田の井田跡、野崎浜塩田の大樋、百間川の大水尾旧堤と、農業を主体として優れた遺構が数多く残っている。大多府港の元禄防波堤と吉井水門は交通遺産で、前者は全長130mの17世紀の現役防波堤で、保存状態もかなり良好である。世界の古代社会は別として、近世以降のヨーロッパの防波堤と比較して、建造年代、規模、自然に逆らわない発想の何れの点でも優れている。吉井水門は現存するわが国最古の運河閘門であり、第1閘門と閘室が道路によって分断されているものの、全体的には往時の石積みをよく残している。ヨーロッパ近世の閘門と比較しても、現存するものとして最古級に属する。以上、2点の交通遺産は、いわば世界的レベルの構造物である。建部井堰は、建造当初の姿を留めた全国でも最長（515m）の斜堰（河川中央の国境で途切れた特殊な形）である。巨石を並べた状態が全長に渡って続く稀な存在である。鏡の州用水湧水池は、長さ130m、高さ約4mの地下堤防により地下水を集水する特殊な施設で、現役でもあり、存在価値は非常に高い。田原用水の旧懸樋は、現役ではないが、現存する国内最大（3連、幅3.3m）の石桁水路橋であり、花崗岩の文化圏らしい構造物である。奴久谷大滝は、灌漑用水を、山腹に造られた溜池から尾根づたいに水を引き、上下2段（高さ35m）の人工の滝として落下させるもので、その風雅さにおいて全国に例を見ない存在である。友延新田の井田

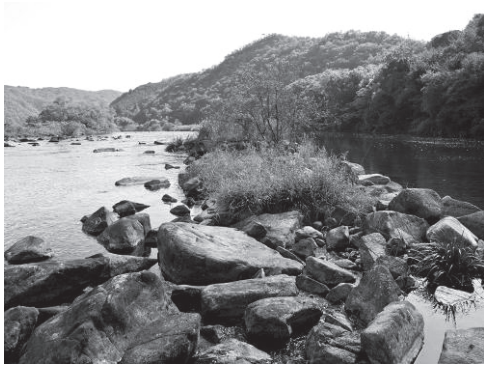


写真-5 建部井堰（撮影：馬場俊介）

跡は、孟子の思想の影響を受けた池田光政が、理想の租税法を試行的に実現させた全国でも唯一の遺構である。野崎浜塩田の大樋は、江戸期に瀬戸内地方で量産されながら、目に見える遺構の形で唯一明確に残る石造取水口の跡である。最後の百間川の大水尾旧堤は、河川の河口部に大規模干拓地を造成可能にするため、津田永忠が考え出した扇型遊水地と特殊な排水樋門の組み合わせであり、現在は遊水地の旧堤のみ残っている。この方式が、以降の日本における干拓地の排水方式の基本となったことを考えれば、重要な遺産と言えよう。

#### <島根>

島根県に多く残る土木遺産は、石畳道（島根では石敷道と規定している）と間歩である。島根県の石畳の特徴は、①大規模なものが多く、②変な修景が一切加えられていないこと、である。この点、おかしな修景の目立つ隣の山口県と一線を画している。中でも、延長 1.2km にわたって江戸期のままの状態が残る笠松峠石畳、発掘後に整備されたため保存状態が最良の津和野の山陰道石畳、旧市街地に石畳が敷かれた珍しい例である美保関青石畳など、素晴らしい遺構が数多く現存する。間歩は、世界遺産に登録された石見銀山の間歩群（13ヶ所）だけでなく、岩屋間歩群（19ヶ所）も加わり全国でも最多を誇る。

その他の遺産としては、佐見一里塚、来原岩樋、掛戸の切割と差海川、網屋浜台場が代表的である。佐見一里塚は、保存状態が劣悪な島根県にあって唯一立派な一里塚であるが、天然のマサ土の小丘を利用した巨大な塚と、オリジナルのクヌギの木が見事な風景を作り出している。来原岩樋は、岡山の吉井水門に次ぐ日本で 2 番目に古い運河開門で、2 段式、第 1 ロックの閘室が岩樋（トンネル）になっている点が、ユニークである。湖の排水用に開削された水路は 2 つあり、掛戸の切割は 14 世紀初頭という古さから、差海川は延長 1.3km という長さから、それぞれ特筆に値する。最後の網屋浜台場は、築造年が寛政 11（1799）年と幕末期の大量生産台場より古い点が非常に珍しい。

#### <広島>

広島県に多く残る土木遺産は、河川舟運の常夜灯、防波堤、瀬戸内海航路の常夜灯、福山藩の砂留である。まず、河川舟運の常夜灯は、小規模河川用の常夜灯が福山・府中の狭い範囲に 84 基も集中している上、それらの常夜灯の多くが、自然岩をバラ

ンスを取って積んだ形態を取っている点で、他に例を見ない。防波堤は、現役最古と目される須波波止（1690 年）を筆頭に、御手洗の千砂子砂止、鞆の防波堤（4 基）など、県単位で見えた場合、最も充実度が高い。須波波止は、岡山の元禄防波堤に 8 年先行するが、規模が半分程度で、天端と犬走にコンクリートが打設されている点が残念である。鞆の防波堤群は、近世最大の集積度を誇る。瀬戸内海航路の常夜灯は、国内最大の常夜灯（高さ 9.1m）である鞆港常夜灯の他、高さ 4.85m の棕浦常夜灯、独特の形態が多い向島の常夜灯群（4 基）などが揃っている。福山藩の砂留は、近世最大の砂防施設群であり、後世の改修（嵩上げ）は大きいものの、少なくとも 30 基の現存が確認されている。

その他の遺産としては、下津田（光友）の石畳、下蒲刈と鞆の雁木、福島堤防と小林三角和久、賀茂川の切通しがある。下津田の石畳は、最大 200×70cm という巨石を用いて造られた 1522 年の石畳で、戦国期という時代と、石の加工の丁寧さから、異色の存在である（一般に歴史を遡るほど、乱雑になる傾向にある）。雁木は、かつてどこの港にもあって、現在ではほとんどが消えてしまった階段状の石護岸であるが、福島正則が築いたと言われる下蒲刈の長雁木（約 56m）と、19 世紀の鞆の大雁木（約 150m）の 2 基が残っていることは、瀬戸内海海運の中心地であった広島県の特長であり、責務でもある。その同じ福島正則が築いたのが、山口県境の巻石堤防（福島堤防）と石水制（小林三角和久）である。最後の賀茂川の切通しは、全国の開削水路の中で、「山を削った」ということが最もよく分かる構造で、海岸沿いに長く続く丘を断ち割って川が掘られている。

#### <山口>

山口県に多く残る土木遺産は、石畳道、石積みの一里塚、石組桁橋、特殊構造の石橋、干拓樋門である。石畳道は、萩往還を中心に残っているが、現代の改変が多すぎるのが目立つ。一里塚の塚の部分が、例外なく石で覆われているのが山口県の特徴で、周防と長門の両国に跨っている。そして、全国では山口県でしか見られない。また、現存数も西日本最多である。恐らく、石で覆われていたことで、山中での「自然への吸収」が進まず、一里塚の形を現在に留めているものと思われる。石組桁橋は、萩周辺の大照院、東光院、金谷天満宮に見られる特殊な桁橋、もしくは、石刻風の桁橋で、1 径間を構成する桁の表面石が、両端まで貫通しておらず、複数個の石材から構成されている点に特徴がある。一見すると支間の支えのない複数の石材が空中に浮いているような印象を与えるが、それは橋桁の裏面での石材の組み合わせによるもので、高度な加工技術と、風雅な心意気の合体作品である。特殊構造の石橋は、よく知られている塩田地帯の石刻橋と、ほとんど知られていないカンティレバー・アーチ（住吉神社参道橋）、2 ヒンジ・アーチ（剣神社山の口橋）など他に例のない構造の両者とからなる。前者は、スパンを伸ばすための限界的な努力、後者は、石工の技量の顕示だと解釈している。干拓樋門は、東から岩国の南蛮樋（2 基）、山陽小野田の唐樋

(2 基)、山口の南蛮樋 (2 基) が代表例で、それぞれ構造的に完全に異なった形態を取っていることから、これらの地域で技術の交流がなかったことが推定できる。

その他の遺産としては、錦帯橋と佐波川関水があげられる。前者は、世界の木造アーチ橋の歴史の中でも、北宋の 2 ヒンジ連接アーチ (1033 年～13 世紀)、錦帯橋 (1673 年創建、1678 年鞍木補強)、グルーベンマン兄弟のトラス混合アーチ (18 世紀後半) と並ぶ三大アーチの一であり、架け替えによる技術保存とはいえ、その価値は測り知れないほど高い。佐波川関水は、1186 年の東大寺再建にあたり、用材を円滑に流すために造られた堰＋水路であり、歴史性、林業遺産という点で重要ではあるが、保存状態は良くない。

### <香川>

香川県に多く残る土木遺産は、金毘羅信仰に係る街道常夜灯 (27 基)、道標 (15 基)、防波堤 (全国最多)、石切場 (小豆島) である。街道常夜灯は規模も小さく、特徴はあまりない。道標は、「指差し」が陽刻されたものが多い。防波堤は、小豆島を中心に全県的に分布しており、安土桃山時代の築造とも言われる小瀬港一号繫船堤 (長さ 28m) が現役で残っているが (天端はコンクリート)、石積みから真偽のほどは確定できない。もし、正しければ、群を抜いて古い現役防波堤となる。大坂城の石切場は小豆島に集中しており、例えば、岡山の前島の石切場などと比較しても、規模、残石量、矢穴跡の見事さ、刻印の豊富さで圧倒的である。

その他の遺産としては、丸亀港の金比羅講青銅燈籠と琴平の高燈籠、満濃池、石栈敷 (小豆島) が特徴的である。丸亀港の燈籠も、琴平の燈籠も船の航行のためとされているが、前者は国内での最大級の青銅製の常夜灯 (高さ 5.3m)、後者は国内最大の木製・瓦屋根付きの灯明台 (高さ 27.6m) である。何れも、金毘羅信仰の興隆ぶりを彷彿とさせる。満濃池は 7 世紀初頭の築造 (大阪の狭山池より若干古い) とされる溜池で、堰堤の改修・嵩上げのくり返しも狭山池とよく似ている。現在の堰堤と池は全く別物なので、歴史性だけで価値付けられる遺産の典型である。石栈敷は小豆島特有の文化で、祭礼の野外見物席である。複数残っているが、中でも、池田栈敷は保存状態が最良で、海と対向している地理的環境も優れている。

### <徳島>

徳島県に多く残る土木遺産は、香川同様に金毘羅信仰に係る道標 (22 基) があるが、常夜灯は少ない。最も特徴的に多いのが吉野川の渡船場 (20 ヶ所) であり、下流部の洪水遺産群である。四国随一の吉野川が県中央を東西に流れていることから、吉野川は舟運に使われる一方、南北の交通を遮ることから渡船場が数多く造られ、下流では水害も頻発した。徳島にとって、吉野川が存在が如何に大きかったかが、残存する遺産群からも伺い知ることができる。ただ、残念ながら、吉野川舟運の主役であった江戸期の藍に係る産業遺産だけは、伝統としては残っているが、具体的な遺構という形では残っていない。渡船場も箇所が多いが、そのほとんどが「単なる跡」であり、渡船場の

遺構が残るものは皆無に近い。つまり、船着場やアクセス路はおろか、常夜灯すら残っておらず、場所が特定できないケースも多い。それに比べて、保存状態がいいのが洪水遺産で、洪水での助命を祈願した東黒田のうつむき地蔵を始めとする地蔵群、堤防決壊時に備えた郡境目当の石や印石 (堤防の高さを規定した石) など、多様な遺産が見られる。同じ洪水常襲地帯であった木曾三川河口部と状況が異なる点に、地域性が感じられる。

その他の遺産としては、千五百河原港跡、吉野川第十堰 (下堰)、狼煙場の 3 点が全国的水準に達している。港跡は、前記・吉野川舟運にかかわる代表的な遺構で、常夜灯・石段・川との位置関係などに往時の雰囲気を漂わせている。吉野川第十堰 (下堰) は、全国屈指の河川堰で、18 世紀初頭に第十 (地名) の地点から徳島城下に向かって開削された新吉野川の洪水防御と、吉野川本流の水量確保のため宝暦 2 (1752) 年に築かれた一種の洗堰から出発し、新吉野川の本流化に伴い横断堰化したもので、現存する区間がどの時代に築造されたかを特定することはできない (江戸期には変わりはない)。しかし、補強のため全面的にコンクリートが敷設され保存状態は悪い (比較的保存状態の良い上堰は、近代化遺産)。狼煙場としては、両端、すなわち、外国船見張り場の大島の狼煙場と、徳島城側の大神子の狼煙場がよく残っている。

### <愛媛>

愛媛県に多く残る土木遺産は、金毘羅信仰に係る道標 (29 基) の他、四国では珍しい石畳、別子銅山、大洲の水防施設群などがある。石畳の代表は法華津峠 (230m) で、距離は短い、変に修景されていない点がいい。別子銅山は、全国有数の鉱山で、「旧別子」と呼ばれる地域に復元した歓東・歓喜の 2 つの間符と、当時のままの大和間符が残っている。近代の別子鉱山遺構は、その内容の豊富さ全国一の規模を誇るが、旧別子も観光化されてはいないが、山奥にひっそりと残っている。大洲の水防施設群の中核をなすものは、肱川右岸の柚木エノキ樹叢 (水防林、長さ約 2km) であり、現役の堤防上に樹齢 300 年の巨大な樹木が茂る風景は、わが国ではなかなか目にできないものである。これ以外に、肱川各所にはナゲ (小水制) も設けられている。

その他の遺産としては、波止浜港の金毘羅灯明台、延野ヶ



写真-6 肱川エノキ樹叢 (撮影：馬場俊介)

の大井手、仰西渠、野坂の防風石塀群などがある。金毘羅灯明台は、高さ約 7m の総石造りの巨大な灯明台（移設）で、丸亀港の金比羅講青銅燈籠に匹敵する、金毘羅への西の入口である。延野ヶの大井手は、現段階で、現存するわが国最古の取水堰（13 世紀後半）であり、当初のものと推定される水路の岩盤堀削の痕跡、柱穴列が残っている。仰西渠は、岩盤を開削（長さ 57m）して造られた江戸期の灌漑用水路である。小規模だが、延野ヶの大井手と違い、文化財にも指定され、公園化されている。野坂の防風石塀群は、最も愛媛らしい遺産の一つで、近代化遺産にも同様のものがあることから、風の強い地方ならではの施設と考えられる。

#### <高知>

高知県に多く残る土木遺産は、防波堤、掘込港湾とその突堤、取水堰、水路用の隧道・切通しである。何れも、その起源は、野中兼山と結び付く点が高知らしい。県内には 5 ヶ所、江戸期の防波堤がリストにあがっているが、その原点は県史跡・柏島防波堤（長さ 270m）である。ただ、この石堤は現在 99% がコンクリートで被覆され、僅かに石基部が残るのみとなっている。掘込港湾は海の荒い高知特有の考案であり、自然の窪地を利用して、拡張・整形し、湾口に突堤を築いて袋状にしたものである。中でも有名なものは、兼山が直接タッチした手結港と、一木権兵衛による室津港である。手結港は、新しい石材をふんだんに利用して往時の姿を再現したが、少なくとも、港口西にある防砂堤は兼山のオリジナルである。室津港は、旧石積が所々残るものの、兼山の津呂港は完全にコンクリート化している。取水堰は、兼山の山田堰が最も有名で、移設された中川第二水門放水口ともども公園化されている。隧道・切通しも兼山由来で、小規模だが、新川川の行当の切抜きが、保存状態がそれほど悪くはない。

その他の遺産としては、前記・柏島防波堤の先にある柏島石堤、野市の三叉、岩戸の砂留が代表格である。柏島石堤は島にある町全体を石堤（延長 654m）で守るためのもので、兼山の代表作。野市の三叉は、1 本の灌漑用水を、水門を使わずに 3 本に分けるユニークな施設で、これも兼山。最後の岩戸の砂留だけが、兼山とは無関係なもので、藩の「谷水を用いた和紙産地の保護」という地域の特徴と、全国でも稀な「福山藩以外の砂留」の両者が絡み合った貴重な存在。

#### <福岡>

福岡県に多く残る土木遺産は、石畳道、境界石（190）、石桁橋（20）、石アーチ橋（9、水路用 1 を含む）、荒籠（23）であり、このうち、どこにでもありがちな割に、突出しているのが国境石・藩界石・郡境石などの境界石、九州らしいのが石アーチ橋、福岡らしいのが筑後川の荒籠群（20）である。石畳道としては秋月街道の旧八丁越と長崎街道の冷水峠が代表的である。境界石は、高さ 3m を超えるものが少なくとも 6 基あり、他県では例を見ない。石桁橋は「九州アーチ圏」にあって意外と多く残っているが、久留米市内の 5 連太鼓橋が「中央 2 径間に支柱が入る」という特殊な形をしていて（2 橋）、それが 3 連橋や近代

にも影響を与えている点が面白い。また、石浦大橋（6 連）は一般の石桁橋としては大きな部類に入る。石アーチ橋では、17 世紀架設の熊野神社の眼鏡橋と、水路用の早鐘眼鏡橋（国重文）、さらに、花崗岩製の秋月目鏡橋が重要である。荒籠は石水制の一種で、ほとんどが筑後川に集中し、百間荒籠や永松荒籠が固有名詞で知られている。大半は今回の調査で存在が確認されたもので、名称が付いていない。

その他の遺産として第一に挙げるべきは、矢部川の利水・治水施設群であろう。利水の面では、矢部川を挟んで対峙する柳川藩と久留米藩の水取り争いで、惣河内廻水路から始まり計 5 本の迂回路が掘られた。こうした例は全国を見ても他に例がない。また、治水の面では柳川藩が、新舟小屋のクスノキ林という全国一の立派な水害防止林を造り上げた（長さ 920m、最大幅 130m に樹齢 300 年を超えるクスノキが 500 本以上）。他には、遠賀川の出水による人工水路・堀川の洪水防御用の中間と寿命の 2 つの唐戸、朝鮮通信使の上陸用の相島の先波止、4 世紀の築造とされる裂田溝の安德台の狭窄部、長大な干拓用の石堤防、すなわち、17 世紀の黒崎堤防（585 m）と 19 世紀の永治堤防（1.5km）、日本史上有名な元寇防塁跡（7 ヶ所）など第一級のものが揃っている。

#### <佐賀>

佐賀県に多く残る土木遺産は、成富兵庫茂安に係るものが中心となる。すなわち、国土交通省が全力を挙げて復元した石井樋関連施設群、百間土居、千栗土居、城原川の野越群、それに、各所のクリーク群である。特に、クリークは、後年に構築されたものを含めると佐賀平野全体に広がり、独特の風景を作り出しており、その存在意義は、元々の農業目的だけに留まらない。

その他、単発のものとしては、佐賀市内の石桁橋（特に、国重文の与賀神社参道橋）、小規模ながら全国でも最も美しい曲面石積みの原田井手がある。

#### <長崎>

長崎県には、江戸時代唯一の開港場であった長崎市と、日本と朝鮮半島との中間に位置する対馬の両方が含まれることから、多様な遺産群が存在する。まず、数の多いものを挙げると、石アーチ橋、烽火台の 2 つとなる。いずれも、長崎の特徴がよく出た構成となっている。まず、石アーチ橋は、近世以前の日本の領土内（琉球王国を除く）では、国内最古の長崎眼鏡橋を擁するだけあり、江戸初期のものが 7 橋現存する。烽火台は、沖縄（特に八重山諸島）のものに比べれば見劣りするが、9 ヶ所がリストに上がっている。

その他、相浦川の飛び石、対馬藩お船江と大村藩御船蔵、大手浜と水ノ浦のスクイ、魚見岳台場が特徴的な存在である。まず、佐世保市の相浦川の飛び石は、現役で使用されている本格的な飛び石橋としては、恐らく全国唯一のものである。2 つのお船江は、全国でも最も完璧に近い形で残る 2 ヶ所の遺構である。魚見岳台場、神崎台場跡という 1812 年に完成した 2 つの台場は、全国の台場の 99% が 1850 年以降に造られ

たことを考えると、長崎ならではの特殊な存在である。最後の2つのスクイ（魚垣）は、干満の差の大きい有明海～島原湾らしい存在で、規模・保存状態とも国内（琉球王国を除く）最良の存在である。

### <大分>

大分県で特徴的に多い遺産は、石畳道、石桁橋、石アーチ橋である。石畳道は、全国どこにでもあるが、25ヶ所というのは全国最多である。その中の代表格は、今市石畳と石坂石畳道である。前者は、今市集落を貫通する660mの石畳で、峠道でなく集落内にある石畳は元々稀である上、集落の雰囲気、石畳の規模、保存の方法の何れを取っても秀逸である。石坂石畳道は全長1.26kmと群を抜いて長くはないが、オリジナル部と後年の拡張部を明確にした復元方法は、オーセンティシティを明確にする上で望ましい方法なのだが、全国的には非常に珍しい。石桁橋は、石アーチ圏に属している割に、全国でも有数の多さを数えるだけでなく、迫持ち式の矢貫の石橋や、石方杖形式のとくしん橋のように、特殊な形式も存在する。石アーチ橋は、熊本県に次いで多く、曲線が美しい虹潤橋や、リープアーチの鬼崎スガメ石橋などが含まれている。

その他、特筆すべきものに、青の洞門と川原隧道、初瀬井路隧道群、犬飼港と火の道が挙げられる。青の洞門は菊池寛の『恩讐の彼方に』で知られた素掘りの道路隧道だが、明治期のトンネルにかなり壊されて、建造当初のイメージが損なわれている。一方、川原隧道は、道路隧道としては全国で唯一、石柱を合掌に組んだ天井を有する特異な構造で、全長は52mに過ぎないが圧倒的な存在感がある。隧道は、現役の人道で、アクセス路には石畳や砂留も残り、最良の保存状況にある。初瀬井路隧道群は、大分市内に多い隧道式水路の中で最古のもので、かつ、素掘りの隧道が随所に残り、現役で使われている稀有な例である。犬飼港（1656年）は、青石を敷き詰めた荷揚げ場（「四百石の石畳」）が完璧な姿で残る大野川中流域の河川港である。隣接して、船を揚げるのに使われたと言われる巨大な切り通し（「火の道」）も残り、わが国を代表する河川港の遺構である。



写真-7 川原隧道（撮影：馬場俊介）

### <熊本>

熊本県で特徴的に多い遺産は、石畳道、古道、石アーチ橋、舟着場、石樋門となる。石畳道は数こそ、それほど多くないが、中世由来の可能性もある南郷往還の「道明の石畳」、八勢眼鏡橋

からまっすぐ延びる日向往還の階段状の石畳（160段、長さ500m）、阿蘇の外輪山を越える全長2kmの二重峠石畳など個性的な石畳が存在する。古代律令期の古道は、全国的に分布するが、その形態が「分かり易い」形で残っているのも熊本の特徴である。石アーチ橋は、リストだけでも137橋（水路橋も含む）を数え、全国でも突出して多い。近代の石アーチが大分に集中し、熊本に少ないのと対照的である。中でも、道路橋の最大スパンである霊台橋、水路橋の最大スパンで観光地としても著名な通潤橋、迫石の結合に鉄楔を用いた門前川目鑑橋や豊岡橋の存在など、近世の石アーチ橋では最も充実しているのが熊本である。舟着場は、川尻船着場の長大な雁木と、宇土市の船場橋下流の雁木群とエノキの織りなす歴史的空間が秀逸である。石樋門は、国内最初期の下井手の井樋、巨石樋門の代表である百太郎溝旧樋門（移設）、岡山藩から施工法を伝授された干拓地の大鞘樋門群などが代表格である。

その他、石桁橋では岩原の通水橋（全国一保存状態の良い石方杖橋）、取水堰では笹原の石碓、用水路の特殊技術では鼻ぐり井手（公園化で構造・雰囲気とも欠損）、干拓堤防では十番開旧干拓堤防、蠟燭産業では菊池川堤防のハゼ並木、治水では加藤清正による桑鶴の轡塘（河道内遊水による合流点処理）、上水では轟水源からの石管導水路がよく残っている。しかし、最も特筆されるべきは、用水隧道の幸野溝（旧溝）で、大分の川原隧道の水路版であり、全長1515m、火山灰土の地山のため、すべて合掌構造で壮観なのだが、唯一残念な点は、漏水のためトンネル内に鉄管が敷設してある点である。

### <宮崎>

宮崎県に多く残る土木遺産は、石敢當である。石敢當は設置年代の特定が困難なものが多いが、原田の梵字石敢當（1689年）が古さからも、梵字を用いたという特殊性からも代表格である。ただ、全体的にあまり大切にされていないのが現状である。

その他、北又江原の道しるべ、堀川運河、旧・藩都農牧駒追込場が特徴的である。北又江原の道しるべは高さ6mという巨大さが国内屈指であるし、堀川運河は護岸改修がされたが、運河の雰囲気は残っている。最後の駒追込場は、長野と並ぶわが国で2ヶ所しか確認できていない平安期の飼馬に係る遺産である。

### <鹿児島>

鹿児島県に多く残る土木遺産は、宮崎同様に石敢當と、石アーチ橋である。石敢當は、近代のものまで入れれば県内だけで1000基を超え、全国最多であるが、近世のものでは梵字石敢當が3基あるのが特徴である。石アーチ橋は数こそ少ないが、かつては、鹿児島市内に甲突五橋と称して4～5連の石アーチ橋が連続していた。しかし、今では近郊の石橋記念館に3橋が移設・復元されているに過ぎない。

その他、特徴的なものとしては、捍海堤、長崎堤防がある。前者は、階段状となったかまぼこ型断面を有する特異な大型

防波堤（長さ 215m、現役）、後者は、川内川河口に造られた国内唯一の鋸歯型の平面をもつ石堤防（現役）である。

#### ＜沖縄＞

沖縄県に多く残る土木遺産は、石畳道、石アーチ橋、魚垣、湧水・井戸、遠見台・火番盛、印部石と種類が多く、後半の 4 つは沖縄ならではのものである。近世以前は琉球王国という日本とは別の国家に所属していただけであって独自性は大きいし、沖縄戦争の影響も、本島を別にすれば大きくない。まず、石畳道であるが、材質が石灰岩という点が沖縄以外と大きく異なる点で、柔らかい岩質のため、石材同士の密な組み合わせが可能である。最も有名なのは、那覇市内の金城町石畳であるが、これには相当修復の手が入っている。原形に近いものは、比屋根坂石畳や伊野波の石くぶりであろう。石アーチ橋も、復元・部分保存などいろいろな形で 15 橋ほどが残っている。全都道府県で最古の天女橋、世界遺産の一部になっている識名園の 3 橋、かつては琉球一の規模を誇った真玉橋の遺構などが代表格である。魚垣は、島嶼部によく残っており、最大規模のものは八重山諸島の小浜島に複数、重複するように現存する。また、石垣島の白保竿原の垣は、かつて 10 基ほど並んでいた魚垣を近年になって復元したものである。湧水・井戸は、川のない沖縄にとって、生命線と言ってよく、様々なタイプの湧水・井戸が造られてきた。正確な数は把握しきれていないが、リストだけでも 73 基を数える。沖縄本島のものは復元されたものも多いが、代表的なものには、金城大樋川、寒水川樋川、沢岬ヒージャー、大和井戸（宮古島）、仲筋井戸（竹富島）などがある。遠見台・火番盛も、全国一の規模を誇る。その理由は、多く存在する八重山諸島の島々が平坦なため、石灰岩を積み上げた構造物を造る必要性に迫られたからである。これらの多くは、近年一括して国史跡に指定されたが、形態・保存状態とも最良のものは、指定外のピッチェルムリイ（石垣島）である。印部石は、蔡温時代の検地の際、土地測量に使った図根点径 1 間程の根石をもつ土塚と、その上に立てられた石のことを指している。本島各所に見られるが、盗難防止のため所在地が明らかとされていないものが多い。どれも似ているが、土塚の残り具合と刻印文字から、古我知の印部石が代表格である。



写真-8 ピッチェルムリイ（撮影：馬場俊介）

## 4. 結論

本論文で得られた都道府県ごとの土木遺産に見られる特徴は、3 分の 1 ほどが、近代化による改修等の影響を偶然逃れたことによるもの、残りの 3 分の 2 ほどが、その地域固有の特徴が反映したものとなった。もちろん、何度も述べているように、その地域固有の特徴で、完全に失われてしまったものもあり、本結論の結果を逆用して、該当する地域の本来の特徴というような拡大解釈は厳に戒めるべきである。しかし、現時点で見て、これらの遺産が各地に残り、それらがその地域の「今日的な」地域性を造り上げていることは事実であり、こうした優れて個性的な景観を、地域づくりに活かさない手はない。少なくとも、即刻活かさなくても、破壊することによって将来の芽を摘むことは、絶対にあってはならないことだと思う。

## 謝辞

各市町村の教育委員会の文化財担当者各位には、多忙なかでの余分な調査にご協力いただいたことを、心から感謝したい。心からの謝意を表したい。

本研究は、トヨタ財団 2007 年度研究助成「近世以前の土木遺産の全国調査—悉皆調査、価値判断基準の作成、保存・活用の方針の事例分析を含めた総合調査」（2007. 11～2009. 10）等により実施中である。

## 参考文献

- 1) 近世以前の日本の土木遺産の総合調査（第一報）、劉 瑜・樋口輝久・馬場俊介、土木史研究（講演集）、Vol. 27, 2007, pp. 259-266
- 2) 近世以前の日本の土木遺産の総合調査—保存状態に関する施設別の価値判断の指標、馬場俊介・樋口輝久・劉 瑜、土木史研究（論文集）、Vol. 27, 2008, pp. 61-76
- 3) 近世以前の日本の土木遺産の総合調査—中国地方にみる独自の地域性、馬場俊介・樋口輝久・劉 瑜、土木学会論文集D、Vol. 65 No. 2, 2009, pp. 175-186
- 4) 近世以前の土木遺産から見た、都道府県ごとの地域的特徴、馬場俊介・樋口輝久・丹羽野真也・山元亮、土木史研究（講演集）、Vol. 29, 2009, pp. 173-176
- 5) 新潟県中越地域における河川トンネルの分類と一考察、田口恭史・大熊孝、土木史研究（講演集）、Vol. 26, 2006, pp. 357-360